北杜市埋蔵文化財調査報告　第13集

山梨県北杜市

平山遺跡

農産物処理加工施設建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2006
北杜市教育委員会

北杜市埋蔵文化財調査報告　第13集

山　梨　県　北　杜　市

平　山　遺　跡

農産物処理加工施設建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2006
北杜市教育委員会

例　　言

1　本書は、山梨県北杜市須玉町江草字平山で施工された農産物処理加工施設建設工事に伴う平山（ひらやま）遺跡緊急発掘調査の報告書である。

2　本調査の現地作業は、平成17年6月21日に着手し、平成17年7月22日に完了した。調査記録と出土品の整理作業は、平成17年8月25日に着手し、平成18年3月31日に完了した。

3　発掘調査の経費は、農産物処理加工施設の事業主体である北杜市が負担した。

4　発掘調査は北杜市教育委員会が直営で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体　　北杜市教育委員会教育長　小清水淳三

調査担当　　北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当　主査　佐野隆

調査事務局　北杜市教育委員会生涯学習課

5　本書の執筆、編集は、佐野があたった。

6　本遺跡の出土品及び調査に係わる諸記録は、北杜市埋蔵文化財センターが保管している。

7　確認調査の実施にあたって以下の方々と機関に、ご協力とご指導を賜った。ご芳名を記して感謝したい（五十音順・敬称略）。

安藤広道（慶應義塾大学）、小澤寛（須玉町江草区）、小林健二（山梨県埋蔵文化財センター）

8　調査参加者（五十音順・敬称略）

浅川英光、厚芝金夫、粟澤美香、石原すみえ、石渡節子、井手研二、井手正美、伊東加代子、井上町子、長田重子、小澤久恵、小野一英、小野芳江、片山和江、兼松章子、上村ゆきえ、河手寿子、小松原千津、酒巻正道、篠原恵美子、清水貞子、清水里子、清水さゆり、清水　尋、清水やす子、清水泰倫、下島綾美、鈴木節夫、田代武士、千葉毅、筒井つや子、壷屋てる子、野崎美智江、長谷川規愛、平島勝、伏見徳芳、藤原喜美子、水上勝美、三井喜満、三井つや子、皆川由紀子、皆川禮子、宮崎夏子、山田雅子、山中敏夫、八巻久子、八巻まさ子

凡　　例

1　報告書中の地図は、国土地理院発行２万５千分の１地形図「若神子」「韮崎」、５万分の１地形図「八ヶ岳」「韮崎」「鰍沢」「金峰山」「御岳昇仙峡」「甲府」、須玉町役場「須玉町全図」（廃版）、北杜市役所農政課作成「農産物処理加工施設設計図」を使用した。

2　図版及び観察表中の遺構埋土色及び土器胎土色は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。

本文目次

第１章　調査と遺跡の概要……1
　第１節　調査の経緯……1
　第２節　遺跡の概要と周辺の環境……1
　第３節　調査の範囲と方法……2
第２章　遺構と遺物……8
　第１節　住居跡……8
　第２節　土坑とピット……9
　第３節　掘立柱建物跡……12

表　目　次

第１表　周辺の遺跡地名表……4
第２表　土坑観察表……13
第３表　ピット観察表……15
第４表　土器観察表……17
第５表　石器観察表……19

図版目次

第１図　周辺の遺跡……3
第２図　遺跡の位置図……5
第３図　調査区位置図……5
第４図　調査区域詳細図……6
第５図　遺跡配置図……7
第６図　1号住居・1号住居埋甕炉・39号土坑，出土遺物　…20
第７図　2号住居，出土遺物　……21
第８図　3号住居・3号住居埋甕，出土遺物　……22
第９図　出土遺物……23
第10図　3号・21号土坑，出土遺物　……24
第11図　26号・27号土坑，出土遺物　……25
第12図　28号・36号土坑，出土遺物　……26
第13図　土坑群Ａ，出土遺物　……27
第14図　土坑群Ａ，出土遺物　……28
第15図　土坑群Ｂ・Ｃ，出土遺物　……29
第16図　土坑群Ｃ・土坑群Ｄ，出土遺物　……30
第17図　土坑群Ｄ……31
第18図　土坑群Ｅ・Ｆ，出土遺物，堀立柱建物　……32
第19図　出土遺物……33

写真図版目次

写真図版１　調査地点近景……34
写真図版１　調査地点近景……34
写真図版２　1号住居跡　……35
写真図版２　1号住居炉跡検出状況　……35
写真図版３　1号住居炉跡半截状況　……36
写真図版３　1号住居炉跡半截状況　……36
写真図版４　1号住居跡完堀状況　……37
写真図版４　1号住居跡炉体土器　……37
写真図版４　1号住居跡出土土器　……37
写真図版５　2号住居跡完堀状況　……38
写真図版５　2号住居埋土セクション　……38
写真図版５　2号住居出土土器　……38
写真図版６　3号住居跡完堀状況　……39
写真図版６　3号住居跡完堀状況　……39
写真図版７　3号住居埋土セクション　……40
写真図版７　3号住居遺物出土状況　……40
写真図版８　3号住居炉跡　……41
写真図版８　3号住居炉跡半截状況　……41
写真図版９　3号住居炉体土器　……42
写真図版９　3号住居出土土器　……42
写真図版10　3号土坑　……43
写真図版10　21号土坑　……43
写真図版11　26号土坑　……44
写真図版11　27号土坑上層礫検出状況　……44
写真図版12　27号土坑下層石組検出状況　……45
写真図版12　28号土坑上層礫検出状況　……45
写真図版13　28号土坑下層石組検出状況　……46
写真図版13　3号・21号・27号・28号・7号・10号土坑出土土器　…46
写真図版14　36号土坑　……47
写真図版14　36号・50号・54号・68号土坑・遺構外出土土器　…47
写真図版15　土坑群Ａ（北西から）……48
写真図版16　7号土坑……49
写真図版16　10号・61号土坑　……49
写真図版17　30号土坑　……50
写真図版17　45号土坑　……50
写真図版18　47号土坑　……51
写真図版18　52号土坑　……51
写真図版19　53号土坑　……52
写真図版19　62号・63号土坑　……52
写真図版19　64号土坑　……52
写真図版20　65号土坑　……53
写真図版20　30号・47号・53号・62号・65号土坑　……53
写真図版20　66号土坑　……53
写真図版20　6号土坑　……53
写真図版21　5号土坑　……54
写真図版21　66号・1号・8号・44号・67号・5号土坑出土土器　…54
写真図版21　12号土坑　……54
写真図版21　13号土坑　……54
写真図版22　12号・13号土坑出土土器　……55
写真図版22　25号ピット　……55
写真図版22　38号土坑　……55
写真図版22　59号土坑　……55
写真図版23　60号土坑　……56
写真図版23　38号・60号・14号・15号・23号・26号土坑出土土器…56
写真図版23　1号堀立柱建物跡　……56
写真図版23　1号土坑　……56
写真図版24　8号土坑　……57
写真図版24　9号土坑　……57
写真図版24　14号土坑　……57
写真図版24　15号土坑　……57
写真図版25　16号土坑　……58
写真図版25　17号土坑　……58
写真図版25　18号土坑　……58
写真図版25　19号・20号土坑　……58
写真図版26　22号土坑　……59
写真図版26　23号土坑　……59
写真図版26　24号土坑　……59
写真図版26　25号土坑　……59
写真図版27　29号土坑　……60
写真図版27　32号土坑　……60
写真図版27　33号土坑　……60
写真図版27　34号土坑　……60
写真図版28　37号土坑　……61
写真図版28　39号土坑　……61
写真図版28　41号土坑　……61
写真図版28　42号土坑　……61
写真図版29　43号土坑　……62
写真図版29　44号土坑　……62
写真図版29　46号土坑　……62
写真図版29　48号土坑　……62
写真図版30　50号土坑　……63
写真図版30　51号土坑　……63
写真図版30　54号土坑　……63
写真図版30　56号・68号土坑　……63
写真図版31　57号土坑　……64
写真図版31　58号土坑　……64
写真図版31　61号土坑　……64
写真図版31　67号土坑　……64
写真図版32　遺構外出土の石器　……65
写真図版32　遺構外出土の石器　……65
写真図版32　遺構外出土の石器　……65
写真図版32　遺構外出土の石器　……65

第１章　調査の概要

第１節　調査の経緯

北杜市は、中山間地域の農業振興を目的とした農産物処理加工施設の建設を、北杜市須玉町江草字平山地内で計画した。建設予定地の一帯は田園空間整備事業による圃場整備工事が実施され、それに伴い須玉町教育委員会（当時）が、埋蔵文化財の有無、範囲を確認する試掘調査を行ってきた。この調査により、一帯には縄文時代から平安時代にわたる小規模な集落跡（平山遺跡）が所在することが判明し、平成 14 年度には発掘調査が実施されている。

今回の農産物処理加工施設用地は、圃場整備工事範囲の北東隣接地に当たり、平山遺跡の範囲内に含まれると予想された。そこで、北杜市教育委員会が平成 16 年度に、用地内で改めて試掘調査を実施したところ、縄文時代中期初頭、弥生時代、平安時代の土器破片等が出土し、住居跡らしき遺構も確認された。

北杜市教育委員会は、埋蔵文化財の保存をめぐって、事業主体である北杜市役所農政課、須玉総合支所産業振興課と協議したが、造成計画では掘削が現地表面から深さ数メートルにも及び、現地での保存は不可能であるとの結論に達した。そのため、造成工事に先立ち、工事範囲 2,000 ㎡のうち遺構と遺物が確認された 1,669 ㎡について、記録保存のための発掘調査を実施することとした（第４図）。この調査区域の東側 1/3 は、詳細なトレンチ調査を実施し、遺構が確認されなかった。

この発掘調査に要した経費は、3,068,416 円で、北杜市が負担した。この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

文化財保護法第 94 条による通知	平成 17 年 6 月 27 日付け北杜須総第 714 号
同通知に係わる指示文書	平成 17 年 7 月 21 日付け教学文第 1025 号
文化財保護法第 99 条による発掘着手報告	平成 17 年 8 月 2 日付け北杜生学第 590-3 号
同条による発掘終了報告	平成 18 年 4 月 18 日付け北杜生学第 103-4 号
埋蔵物発見届	平成 18 年 4 月 18 日付け北杜生学第 103-1 号
埋蔵物保管請書	平成 18 年 4 月 18 日付け北杜生学第 103-2 号
埋蔵文化財保管証	平成 18 年 4 月 18 日付け北杜生学第 103-3 号

本発掘調査の日程は以下のとおりである。

平成１７年	6 月 21 日～	調査対象地点の除草・測量
	6 月 21 日～ 7 月 5 日	重機による表土剥作業
	7 月 6 日～	発掘調査に着手
	7 月 22 日	発掘調査終了・現場引渡し
	7 月 26 日	整理作業に着手
平成１８年	3 月 31 日	整理作業を終了

なお、本調査終了後に、計画通り農産物処理加工施設が建設されている。

第２節　遺跡の概要と周辺の環境

本発掘調査では、縄文時代中期初頭の住居跡 1 軒と土坑、縄文時代中期中葉の土坑、弥生時代後期の住居跡 2 軒と掘立柱建物跡、土坑が検出されている。須玉町教育委員会による平成 14 年度発掘調査では、縄文時代中期末葉曽利式期の住居跡数軒、集石土坑などが検出されている。

本遺跡は、茅ヶ岳山麓から秩父山系に連なる丘陵地と塩川の間に位置する。この丘陵地には幾筋かの小河川が

流れて塩川に注ぎ、遺跡はそうした河川のうちの湯戸の沢川と別の小河川とに挟まれた緩斜面に立地している。これらの河川と遺跡との現比高差は相当にあり、遺跡では丘陵地から湧き出す伏流水を利用していたのかもしれない。

周辺は、江戸時代に開削された農業用水路「加納堰」を利用した水田が開かれており、近年は、農家の高齢化と農業後継者不足から耕作放棄地が増えていた。

遺跡の南側 1.5km、湯戸の沢川の南側の尾根上には、縄文時代中期末葉から後期、平安時代にかけての集落遺跡「上ノ原遺跡」がある。

第３節　調査の範囲と方法

発掘調査は、まず表土を 30cm から１ｍほど重機で剥ぎ取った後、人力でもって精査し、遺構確認を行った。遺構検出面は礫が混じる黄褐色土で、暗褐色土で埋まった住居跡等は容易に確認された。

遺構検出後は、遺構種別に応じて略記号を付した。略記号は次のとおりである。なお、遺構名は、現場作業での必要性から便宜的に付したものであり、遺構の性格等を分析したうえで遺構を評価し、決定したものではない。

ＰＨ－数字	平安時代の竪穴住居
ＨＯ－数字	掘立柱建物跡
ＨＳ－数字	配石遺構（主に中世の配石墓）
ＭＺ－数字	溝状遺構
ＳＤ－数字	焼土
ＳＹ－数字	集石土坑
ＤＫ－数字	土坑（直径 50cm 以上を土坑とした）
ＰＴ－数字	ピット（直径 50cm 未満で、柱穴と思われるもの）

調査の記録写真は、35mm 一眼レフデジタルカメラ、６×７判中型カメラで撮影した。

出土遺物は、遺構に伴うと思われるものは遺構毎に、また遺構外の出土品は、遺構外を示す略記号「IG －数字」を付して、それぞれ光波測量器を用いて出土位置を測量・記録して取り上げた。これら以外に、重機による表土剥ぎ取り作業等で出土した遺物は、遺跡一括資料として取り扱った。

遺構の形状は、原則として光波測量器を用いて測量・作図した。また必要に応じて手実測による微細図を作図した。報告書中に記載する高度数字は標高である。測量基準点は、事業者が道路工事設計の際に設けた公共座標第Ⅷ系による基準点から測量して設置したもので、その精度は４級基準点と同等程度である。

整理作業では、出土品を洗浄後に、すべての出土品を対象に注記作業を行った。整理作業の過程で、現場での取り上げ遺構名に齟齬があることが判明した場合もあったが、訂正による混乱を防ぐために、現場で付した取り上げ記号・番号を変更することなく、そのまま注記した。

遺跡は調査終了後に北杜市役所農政課へ引き渡し、計画通り農産物処理加工施設が建設された。本発掘調査に係る諸記録、出土品は、全て北杜市埋蔵文化財センターに保管してある。

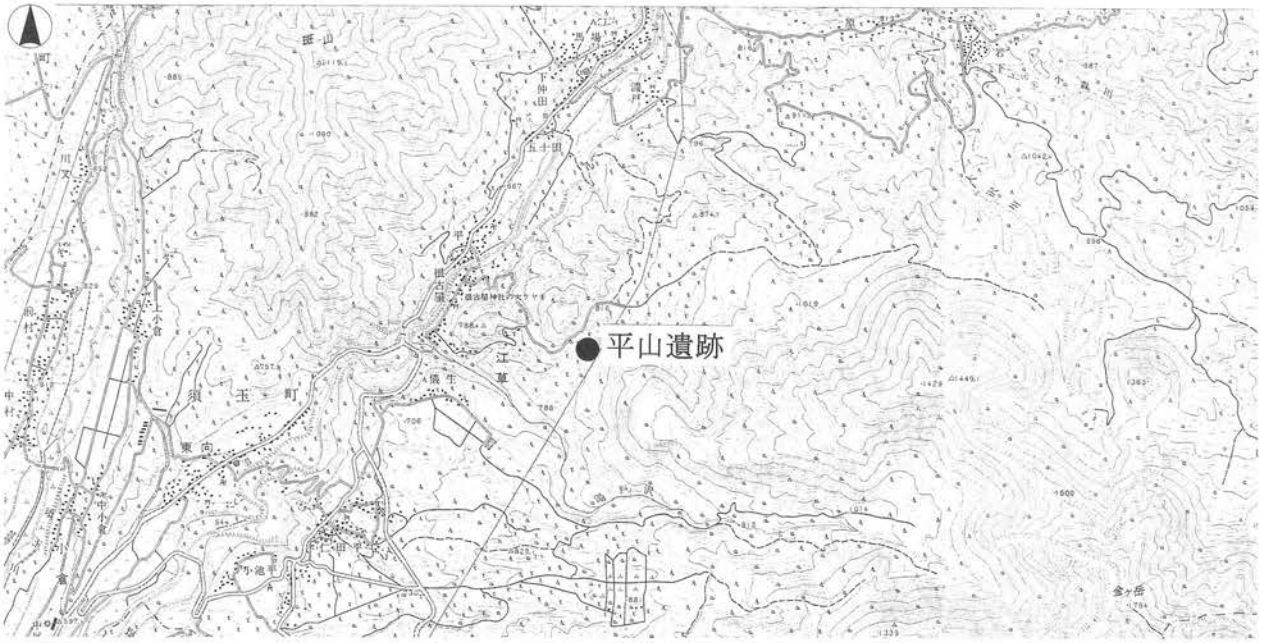
参考文献

須玉町教育委員会　2003 『平山遺跡　―田園空間整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』

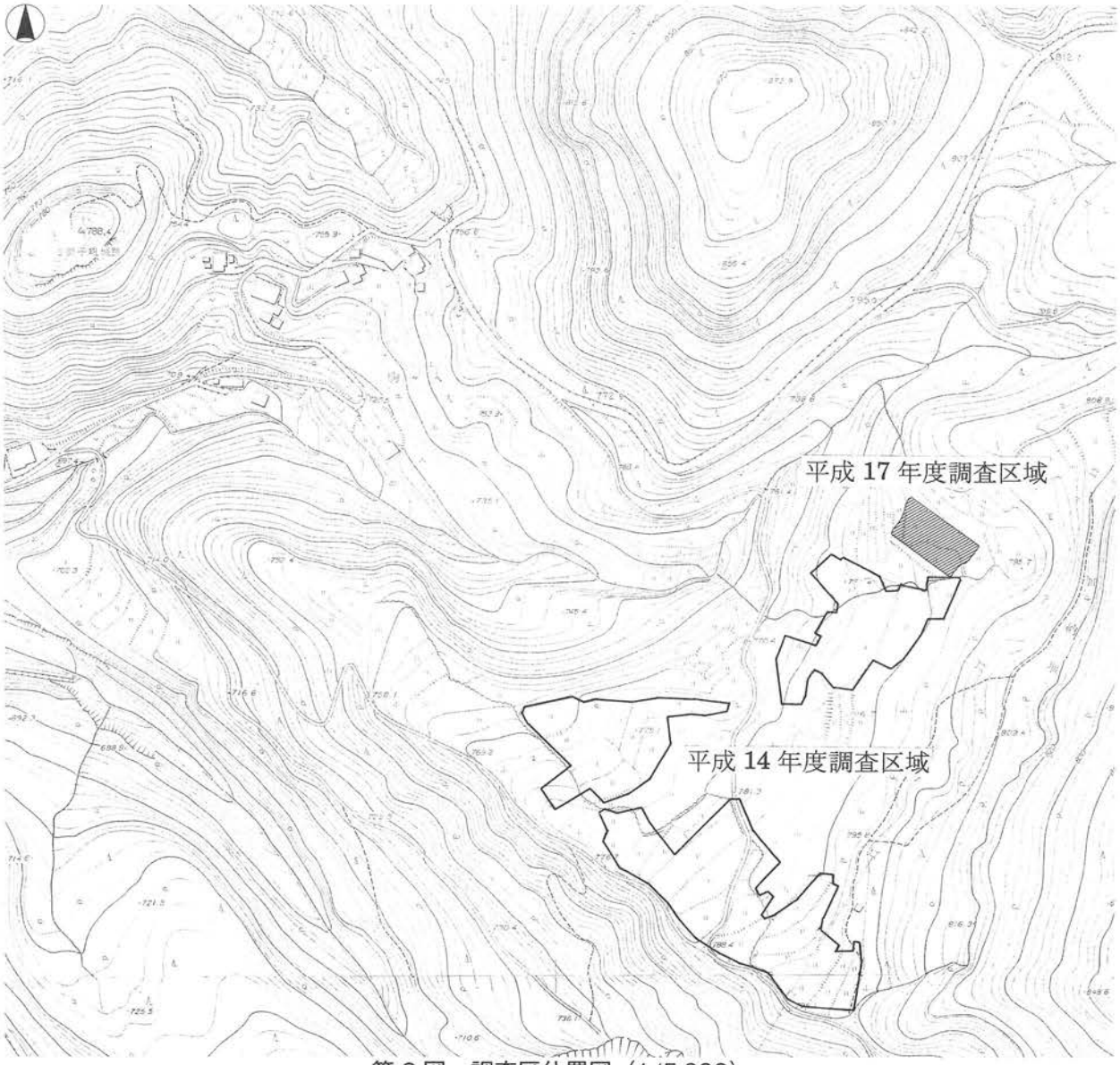
第１図　周辺の遺跡

第１表　周辺の遺跡地名表

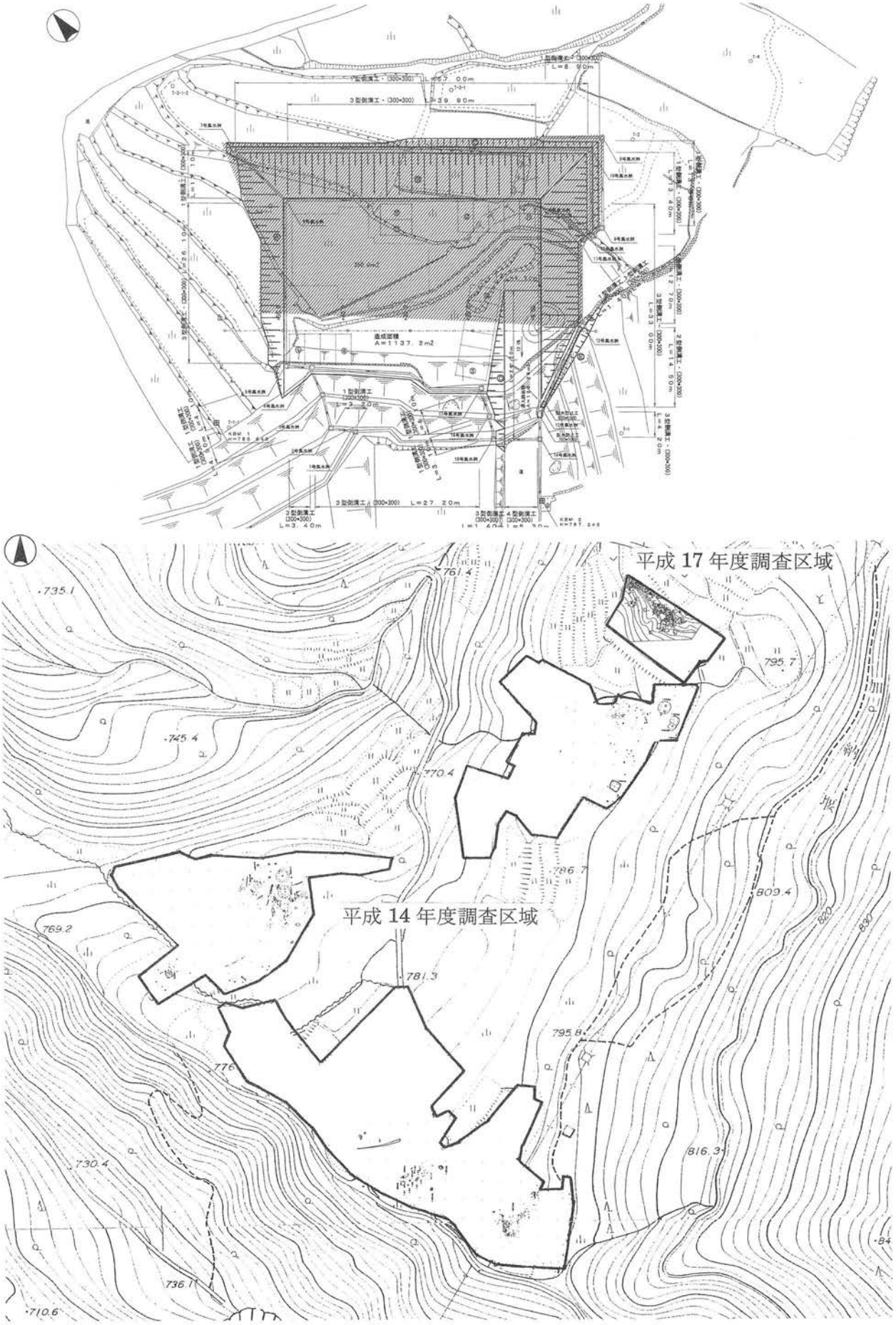
番号	遺跡名	所在地	時期	遺構	出典	発行年度	発行機関
1	平山	北杜市須玉町	縄文・弥生中期・後期	住居2軒・土坑群・掘立柱建物跡			
2	当町	北杜市高根町	弥生時代	遺物のみ出土	西原遺跡・当町遺跡	1987	高根町教育委員会
3	金生	北杜市大泉町	縄文時代晩期	住居・配石群	金生遺跡（縄文時代編）	1989	山梨県教育委員会
4	柳坪Ａ	北杜市長坂町	弥生時代後期	住居１軒	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1975	山梨考古学研究会
5	健康村	北杜市長坂町	縄文時代晩期	竪穴状遺構、土坑、埋甕	健康村遺跡	1994	新宿区区民健康村遺跡調査団
6	屋敷平	北杜市白州町		中期遺物のみ出土	屋敷平遺跡	1991	白州町教育委員会
7	北村	北杜市長坂町	弥生時代末～古墳時代前期	方形周溝墓群	北村遺跡	1996	長坂町教育委員会
8	頭無Ａ	北杜市長坂町	弥生時代後期		山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1975	山梨考古学研究会
9	後田	北杜市須玉町		中期・後期遺物のみ出土	後田遺跡	2005	北杜市教育委員会
10	中村道祖神	北杜市明野町		土坑１基	千野木Ⅰ・Ⅱ遺跡・池の下遺跡・踊石Ⅱ・中村道祖神遺跡	1990	明野村教育委員会
11	梅之木	北杜市明野町	弥生時代前期	土坑５基	梅之木遺跡Ⅱ	2003	明野村教育委員会
12	高砂	北杜市須玉町	弥生時代後期	住居９軒	高砂遺跡	2004	須玉町教育委員会
13	腰巻南	北杜市須玉町		住居13軒	腰巻遺跡（第１～３次調査）	2004	明野村教育委員会・須玉町教育委員会
14	大豆生田	北杜市須玉町		遺物のみ出土	山梨県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	1976	山梨県教育委員会
15	多屋前	北杜市須玉町		遺物のみ出土	多屋前遺跡	2001	須玉町教育委員会
16	下反保	北杜市明野町	弥生時代前期	土坑１基（フラスコ状土坑）	深山田・下反保・屋敷添遺跡	2002	屋敷添遺跡等発掘調査会
17	石之坪	韮崎市	弥生時代中期前半	土坑20基	石之坪遺跡（東地区）	2000	石之坪遺跡発掘調査会
18	中道	韮崎市	弥生時代後期	遺物のみ出土	金山遺跡・下木戸遺跡・中道遺跡	1986	韮崎市教育委員会
19	下大内	北杜市明野町	弥生時代前期	土坑１基（再葬墓）	下大内遺跡・屋敷添第２遺跡・中原遺跡	1997	明野村教育委員会
20	中田小学校	韮崎市	弥生時代後期	住居３軒	中田小学校遺跡	1985	韮崎市教育委員会
21	宮ノ前	韮崎市	弥生時代前期	水田跡	宮ノ前遺跡	1992	韮崎市遺跡調査会
22	堂の前	韮崎市	弥生時代後期	住居４軒	中本田遺跡・堂の前遺跡	1987	韮崎市教育委員会
23	後田堂ノ前	韮崎市	弥生時代後期	住居５軒	後田堂ノ前遺跡	1997	韮崎市遺跡調査会
24	後田第２	韮崎市	弥生時代後期	住居６軒	後田第２遺跡	1996	韮崎市遺跡調査会
25	下横屋	韮崎市	弥生時代後期	住居８軒	下横屋遺跡	1991	韮崎市教育委員会
26	三宮地	韮崎市	縄文時代晩期～弥生時代前期	遺物のみ出土	三宮地遺跡	1998	韮崎市遺跡調査会



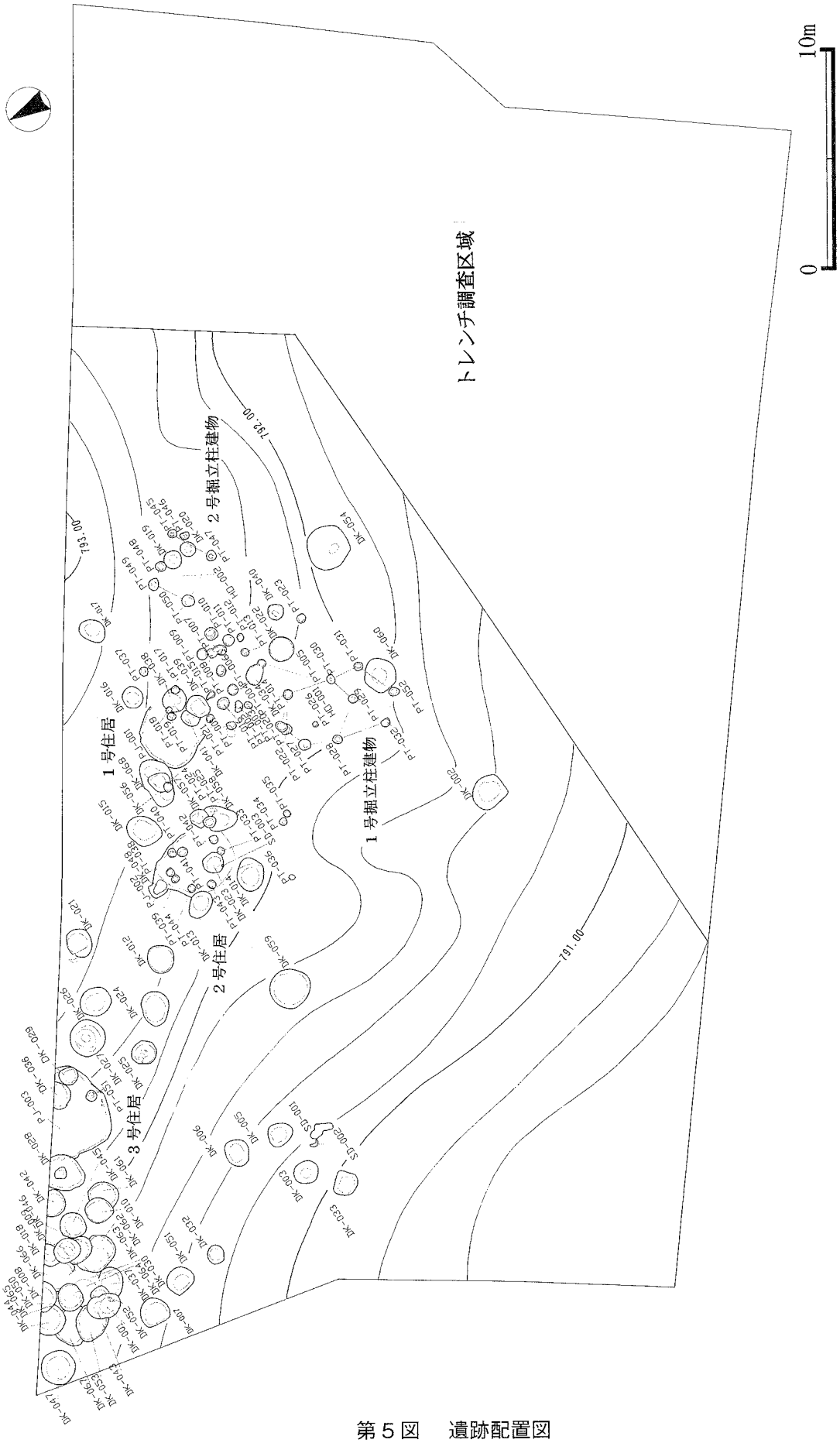
第２図　遺跡の位置図（1/50,000）



第３図　調査区位置図（1/5,000）


平成 17 年度調査区域
平成 14 年度調査区域
735.1
761.4
795.7
745.4
770.4
786.7
809.4
769.2
781.3
795.8
776
816.3
730.4
736.1
710.6

第４図　調査区域詳細図


10m
0
トレンチ調査区域
2号掘立柱建物
1号掘立柱建物
1号住居
2号住居
3号住居
192.00
193.00
191.00

第５図　遺跡配置図

第２章　遺構と遺物

本遺跡では、縄文時代中期の住居跡と土坑、弥生時代中後期の住居跡と掘立柱建物跡、土坑が検出されている。以下、3 軒の住居跡と掘立柱建物跡、土坑とピットのうち主なものの調査所見と出土品を報告する。

なお、土坑は概ね直径が 50cm を超えるもの、ピットは 50cm 未満のものと便宜上区分して命名しており、現場調査で遺構の性格を吟味した上での命名ではなく、また若干の認定間違いのあること（ピットと命名したが調査の結果、直径 50cm を超えた場合など）をお断りしておく。

第１節　住居跡

１号住居（PJ-1　第６図、写真図版２～４）

推定長軸 3m、短軸 2.8m の楕円形の竪穴住居跡で、確認面からの掘り込みは深さ 10cm ほどであった。住居の南端には土坑が重複し、住居の輪郭を確認できなかった。遺構確認面は耕作や樹根による攪乱で土壌が安定しておらず、これらの土坑と住居の新旧関係は確認できなかった。土坑については後述する。

竪穴は浅いため土層図を実測しなかったが、黒褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/4)が5%ほど混じる細粒土で、小礫や炭化物が若干混じる。しまりは強くなく、移植ゴテで容易に掘り下げることができた。

床面は軟弱で、硬くしまった貼床が検出されなかったため、調査では床を掘り下げすぎてしまった。住居内部の北寄りには埋甕炉と焼土が検出された。柱穴等は検出されなかった。

埋甕炉の炉体土器等から本住居は弥生時代後期と思われる。この土器（第６図5）は、胴部のみが残り、口縁部と底部が打ち欠かれている。現存重量は 530 g である。胴部に櫛描波状文を横位に施文し、器の内外面をきれいに磨いている。

住居からの出土品は、弥生時代後期の櫛描波状文、条痕文、口唇部に刻みを施した土器などの破片 30 点 346g、縄文時代の土器破片 39 点 544g、黒曜石剥片 10 点 29g である。

２号住居（PJ-2　第７図、写真図版５）

おそらく楕円の平面形になると思われる竪穴住居で、確認面からの掘り込みは最大で深さ 10cm ほどであった。住居南側では住居の平面形を確認できなかった。数基の土坑と重複するが、1 号住居と同様に住居と土坑の新旧関係は確認できなかった。住居埋土は 1 号住居と同様である。

床面は軟弱で、硬くしまった貼床は検出されなかった。直径 40cm ほどのピット 8 基が検出され、これらはおおむね楕円に配置されており、柱穴と思われる。ただし、いずれのピットも非常に浅く、深さは 6cm から 13cm 程度である。炉跡は確認されず、わずかに 23 号土坑に接して床面が焼土化した箇所が検出された程度である。

出土品は、少量で、弥生時代後期の土器 2 個体の破片 54.6g、土器破片 14 点 160g、縄文時代早期と中期の土器破片 5 点 42g、黒曜石製石鏃破片 1 点 0.35g、黒曜石剥片 5 点 1.3g、頁岩剥片 1 点 24g である。本住居は 1 号住居と形状が共通することと出土品から、弥生時代後期の遺構と思われる。

３号住居（PJ-3　第８図～第 10 図、写真図版６～９）

調査区の北端で検出された竪穴住居で、確認面からの掘り込みは深さ 30cm であった。硬くしまった床面は検出されなかったが、第 8 図に示した土層図の第 5 層が床と思われる。柱穴が 1 基（PT51）確認された。住居の中央と思しき箇所で、埋甕炉を検出した。第 8 図 1 の炉体土器を埋設してある。

本住居は、3 基の土坑と重複する。28 号土坑（DK28）は本住居の土層観察では住居が土坑を切るようにみえたが、この土坑から弥生時代後期の土器破片 2 点が出土している。29 号、36 号土坑（DK29、DK36）からも弥生時代

後期の土器破片が出土しており、いずれの土坑も住居よりも新しい遺構である可能性が高い。

なお住居確認面では埋土が特に黒く礫が集中する箇所があったため、49号土坑、55号土坑として調査したが、調査の結果、土坑ではなく住居埋土の一部であることが判明した。

本住居の出土品は、炉体土器1点2,570g、縄文時代中期の土器破片141点2,711g、黒曜石製石鏃破片1点0.7g、石鏃未成品1点1.3g、黒曜石剥片38点40.7g、頁岩剥片8点158.4g、水晶剥片1点1.1g、磨石凹石6点2,600g、石皿2点9,040g、台石破片1点515g、弥生時代の土器破片4点99gである。縄文時代中期の土器はほとんどが中期初頭五領ヶ台式で、ほかに井戸尻式土器の破片がわずかに混じる。ほぼ完形の石皿（10図1）は、埋土の礫集中の遺構確認面で出土している。

本住居は、縄文時代中期初頭の五領ヶ台式期の遺構と思われる。

第2節　土坑とピット（第6図、第10図～第19図、写真図版10～31）

縄文時代中期中葉から弥生時代にかけての土坑68基が検出された。ここでは特徴的な土坑のみを報告するが、全土坑の位置と属性は第5図、第13図、第15図、第16図と第1表に示した。

3号土坑（DK-3　第10図、写真図版10・13）

調査区西寄りで検出された土坑で、長軸115cm、短軸103cm、確認面からの深さ30cmの円形土坑である。埋土は暗褐色土に褐色土が混じる細粒土で、礫数個が出土している。出土品は、縄文時代早期の繊維が混入する土器破片2点22g、弥生時代の条痕文土器破片1点7g、黒曜石製石鏃破片1点1.7g、頁岩剥片1点1.7gである。

21号土坑（DK-21　第10図、写真図版10・13）

調査区西寄りで検出された土坑で、長軸130cm、短軸110cm、確認面からの深さ30cmの円形土坑である。埋土は黒褐色土に暗褐色土が混じる細粒土で、多数の礫が出土している。出土品は、縄文時代中期五領ヶ台式の土器破片6点98g、黒曜石剥片3点3gが礫に混じって出土した。

26号土坑（DK-26　第11図、写真図版11・23）

3号住居跡の東側2mで検出された土坑で、長軸1.4m、短軸1.25m、確認面からの深さ40cmの円形土坑である。埋土はややしまった黒褐色土で、大小の礫が混じっている。出土品は、縄文時代早期、中期の土器破片各1点、弥生時代の土器破片5点、頁岩製打製石斧破片1点53g、黒曜石剥片6点1.4g、剥片1点36gがある。

27号土坑（DK-27　第11図、写真図版11·12·13）

3号住居跡の東側1mで検出された土坑で、長軸1.65m、短軸1.6m、確認面からの深さ40cmの円形土坑である。埋土はややしまった黒褐色土で、上層に大小の礫が混じっている。礫には顕著な被熱痕がみられなかった。土坑の底面には平石6枚が敷き並べてあり、これらの平石には被熱痕が認められた。埋土上層の礫層と土坑底面の平石との間には、炭化物に由来すると思われる黒色土が検出された。

出土品は、縄文時代中期初頭の土器破片5点54g、凹石1点570gがある。

28号土坑（DK-28　第12図、写真図版12·13）

3号住居西側で住居跡と重複して検出された土坑で、推定長軸1.9m、短軸1.6m、確認面からの深さ45cmの円形土坑である。埋土はややしまった黒褐色土で、埋土上層から下層まで非常に多くの礫が混じっている。27号土坑と同様に土坑底面には石を敷き詰めた窪みが検出された。この窪み内には炭化材小片が混じる黒色土が堆積していた。27号土坑に類似した土坑である。

出土品は、縄文時代早期と思われる土器破片1点31g、前期末葉と思われる土器破片1点38g、中期の土器破片8点128g、黒曜石破片7点2gが検出された。

36号土坑（DK-36　第12図、写真図版14）

3号住居と重複して検出された土坑で、長軸1.2m、推定短軸1m、確認面からの深さ25cmの円形土坑である。

埋土はややしまった暗褐色土で、大小の礫10個ほどが混じっている。3号住居より新しい土坑である。

出土品は、縄文時代の土器破片21点282g、弥生時代の土器破片2点8gが検出された。

土坑群（第13～16図、写真図版15）

調査区域の北西部分を中心にした区域で重複した多数の円形土坑が検出された。出土品は、縄文時代の土器破片、弥生時代の条痕文をもつ土器破片がある。密集して重複しているため、個別の土坑を識別して発掘することができず、確認面全体を数十センチほど下げて土坑底部を検出し、個々の土坑を識別する調査方法を採った。そのため、エレベーション図等に表現された土坑の掘り込みは非常に浅くなっている。以下、便宜上、土坑群A～Fに区分して、主なものを報告する。

土坑群A（第13・14図、写真図版15）

調査区の北西部分に該当する。多数の土坑が重複する。出土品から弥生時代の遺構が多いと判断される。

7号土坑（DK-7　第13図、写真図版16·13）

直径1mほどの不整形土坑で、大小の礫を含む。弥生時代の条痕文土器破片2点45g、黒曜石剥片3点4.3g、石材破片2点210gが出土している（第13図1·2）。

10号土坑（DK-10　第13図、写真図版16・13）

直径1mの円形土坑で、61号土坑と重複する。新旧関係は確認できなかった。縄文時代の土器破片13点137gのほか弥生時代の条痕文土器破片3点18gが出土した（第13図3）。

61号土坑（DK-61　第13図、写真図版16・31）

直径1mほどの円形土坑で、10号土坑と重複する。新旧関係は不明である。弥生時代の条痕文土器破片、ヘラ状の石器が出土している（第13図4·5）。

30号土坑(DK-30　第14図、写真図版17·20)

周辺の土坑と激しく重複する。63号土坑に切られる。弥生時代の条痕文土器破片3点25g、縄文時代の土器破片11点150g、黒曜石剥片1点0.4g、頁岩剥片1点5gが出土している（第14図1）。

45号土坑（DK-45　第14図、写真図版17）

直径1mほどの円形土坑で大小の礫を伴う。縄文時代の土器破片6点112g、黒曜石剥片5点1.7gが出土した。

47号土坑（DK-47　第14図、写真図版18·20）

直径1.5mのやや大きな円形土坑で、大小の礫多数を伴う。弥生時代の条痕文土器破片4点72g、縄文時代の土器破片3点72g、頁岩剥片1点8gが出土した。

52号土坑（DK-52　第14図、写真図版18）

直径0.8mのやや小さな円形土坑で、1号土坑、37号土坑、43号土坑、64号土坑などと重複する。52号土坑は、37号土坑より新しく、また1号土坑と43号土坑よりは古い遺構である。出土遺物はない。

53号土坑（DK-53　第14図、写真図版19·20）

直径1.2mの楕円形土坑で、周辺の土坑と重複する。新旧は不明である。弥生時代の条痕文土器の底部破片が出土している。

62号土坑（DK-62　第14図、写真図版19·20）

直径1mほどの円形土坑で、46号土坑と63号土坑に切られる。縄文時代中期の土器破片が出土した（第14図4）。

63号土坑（DK-63　第14図、写真図版19）

直径1mほどの円形土坑で、礫を伴う。46号土坑に切られ、30号土坑と62号土坑を切る。出土遺物は弥生時代の条痕文土器破片3点40g、縄文時代中期初頭の土器破片1点7g、黒曜石剥片10点1.9gがある。

64号土坑（DK-64　第14図、写真図版19）

直径 1m ほどの円形土坑で、1 号、8 号、43 号、51 号土坑に切られ、30 号、65 号、67 号土坑を切る。これらの重複関係から弥生時代の遺構と推測される。出土遺物には縄文時代中期初頭の土器破片 5 点 54g、黒曜石剥片 3 点 0.8g が出土している。

65 号土坑（DK-65　第 14 図、写真図版 20）

44 号、50 号、64 号、67 号土坑に切られ、土坑の原型がほとんど分からないが、礫が検出されている。弥生時代の条痕文土器破片 2 点 29g が出土している。

66 号土坑（DK-66　第 14 図、写真図版 20･21）

30 号、50 号土坑に切られる。推定直径 1m 程度の円形土坑で、拳大の礫と土器破片が出土している。出土遺物には、縄文時代早期の土器破片 1 点 2g、中期の土器破片 4 点 64g、弥生時代の土器破片 1 点 13g、黒曜石剥片 3 点 2.7g がある。弥生時代と思われる細密な縄文地紋の土器破片を図示した。

土坑群 B（第 15 図）

土坑群 A の南側に該当する。土坑 4 基のほか焼土跡が検出されている。焼土跡の出土品はなかった。

3 号土坑（DK-3　第 15 図、写真図版 10・13）

長軸 115cm、短軸 100cm、深さ 30cm ほどの土坑で、数枚の平石と礫がまとまって検出された。図示できる出土品はなかったが、微小な土器破片が数点出土した。出土遺物は、縄文時代早期の繊維が混入した土器破片 2 点 22g、弥生時代の条痕文土器破片 1 点 7g、黒曜石製石鏃破片 1 点 1.7g、頁岩剥片 1 点 1.7g がある。

5 号土坑（DK-5　第 15 図、写真図版 21）

径 100cm、深さ 20cm ほどの土坑で、土坑壁と底には地山の礫が露出している。出土遺物は縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器など 8 点 38g、弥生時代の櫛描波状文土器破片 1 点 10g（第 15 図 4）、黒曜石剥片 4 点 2.6g、頁岩剥片 1 点 72g がある。

6 号土坑（DK-6　第 15 図、写真図版 20）

径 120cm、深さ 22cm ほどの土坑で、埋土には炭化材破片が多く混じっていた。平石数枚と礫がまとまって検出されている。出土遺物は胎土質から弥生時代と思われる無紋の土器破片 3 点 18g があるが、図示できるものはなかった。

土坑群 C（第 15 図）

2 号住居周辺に該当する。

12 号土坑（DK-12　第 16 図、写真図版 21･22）

径 115cm、深さ 15cm の土坑で、縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片（第 16 図 2）がまとまって出土しているほか、前期末葉と思われる土器破片（第 16 図 1）、黒曜石剥片 3 点 3.4g が出土した。

13 号土坑（DK-13　第 16 図、写真図版 21･22）

径 90cm ほどの土坑で、2 号住居と重複するが新旧は判別できなかった。弥生時代の条痕文土器（第 16 図 4）、櫛描波状文土器（第 16 図 3）などの破片が出土しているほか、縄文時代中期初頭の土器破片 2 点 36g、黒曜石剥片 1 点 1.8g、石材破片 1 点 51g がある。

25 号ピット（PT-25　第 16 図、写真図版 22）

時期不明の 57 号、58 号土坑を切るやや小ぶりの土坑で、現地調査ではピットとして扱ったが、建物跡ではないようである。礫とともに縄文時代中期と思われる土器破片 3 点 164g が出土している。図示できるものはないが、輪積痕が明瞭な藤内式と思われるもの、沈線の垂下文がある曽利式と思われるものがある。

土坑群D（第16図）

1号住居南東に該当する。

38号土坑（DK-38　第16図、写真図版22・23）

弥生時代の住居跡と思われる1号住居と重複する。径100cm、深さ30cmほどの円形の土坑で、17号、18号ピットに切られる。埋土には、地山から出土したと思われる風化した礫が混じっている。第16図5の櫛描波状文土器など弥生時代の条痕文系土器破片2点11gが出土したほか、縄文時代前期末から中期初頭の土器破片12点114g、黒曜石剥片2点0.8g、石英破片1点0.3g、頁岩剥片点2.4gが出土した。

土坑群E

59号土坑（DK-59　第18図、写真図版22）

土坑底部で礫が環状に並んでいるようにみえる、径175cm、深さ20cmの円形土坑。出土遺物には、縄文時代中期初頭の土器破片3点37.4gがある。

土坑群F

60号土坑（DK-60　第18図、写真図版23）

径155cm、深さ80cmの円形土坑で、大きな礫など数個が埋土で検出された。出土遺物には、縄文時代中期の土器破片4点34.2g、弥生時代と思われる細密な縄文が施文された土器破片1点14.4g（第18図1）がある。

ピット

土坑群Dの区域では柱穴状のピット20基程度検出されている。そのうち45号、47号、49号、50号ピットは2号掘立柱建物跡を構成する。

ピットの出土品は少なく、5号ピットで時期不明の土師器もしくはかわらけ破片2点5ｇ、7号ピットで縄文時代早期の土器破片1点23ｇ、9号ピットで縄文時代中期初頭の土器破片1点17ｇが出土した程度で、ピットの時期を決定するのは困難である。

後述する掘立柱建物跡では、1号掘立柱建物跡が弥生時代の遺構と推測されるが、ピットの形状と埋土が類似しており、また同時期では竪穴住居跡2軒が検出され、一定以上の生活痕跡が残されていることから、これらのピットや1号掘立柱建物跡も弥生時代の所産である可能性が高いと思われる。

第3節　掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（HO-1　第18図、写真図版23）

調査区中央からやや東寄りで検出された。10基の柱穴から構成されるが、2棟の掘立柱建物跡が同一地点で建替えられていると思われる。20号ピット（PT20）と22号ピット（PT22）の重複関係から、棟持柱をもつ1間四方の小型の掘立柱建物が先行し、1間分だけ南北に長い大型の建物が新しいと判断される。

遺物は20号ピットで黒曜石剥片1点0.5ｇ、27号ピットで縄文時代中期初頭の土器破片3点17ｇ、32号ピットで弥生時代の土器破片1点9ｇが出土しており、弥生時代の遺構と考えられる。

2号掘立柱建物跡（HO-2　第18図）

調査区北東寄りで検出されたが、柱穴の配置がやや不規則であることから、確実に建物跡か判断できなかった。遺物は出土せず時期は不明であるが、周辺のピットとともに弥生時代の所産である可能性が高いと思われる。

第２表　土坑観察表

番号（DK）	位置	径（長軸×短軸）×深さ、cm			埋土質	出土遺物・調査所見等
001	調査区北西角・土坑群A	90	90	30	10YR4/4 のしまった細粒土	前期末、中期初頭五領ヶ台式土器
002	調査区中央南端	160	140	30	しまった10YR3/2細粒土に拳大礫が多数混じる	弥生時代の土器破片1点
003	調査区西端	115	103	30	ややしまる10YR3/4細粒土に10YR4/6細粒土が10%、炭1%が混じる	弥生時代の条痕文土器、黒曜石製石鏃破片1点など
004	欠番					
005	調査区西端・土坑群B	115	100	22	しまった10YR3/3細粒土	国産陶磁器破片1点、縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器破片、櫛描波状文の弥生土器破片、頁岩剥片、黒曜石剥片
006	調査区西端・土坑群B	125	115	22	10YR3/2細粒土に10YR3/4細粒土が20%、炭3%混じる	弥生時代と思われる土器破片3点
007	調査区北西角・土坑群A	130	120	21	ややしまった10YR3/3細粒土	弥生時代の条痕文土器破片、頁岩剥片、黒曜石剥片
008	調査区北西角・土坑群A	120	110	26	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR3/4細粒土が20%、7,5YR5/6細粒土が10%混じる	30号土坑を切る。弥生時代の条痕文土器破片、頁岩剥片
009	調査区北西角・土坑群A	105	105	32	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる	18号土坑を切る。弥生時代の土器破片、縄文時代早期、中期初頭の土器破片
010	調査区北西角・土坑群A	120	110	28	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/3細粒土が20%混じる	弥生時代の条痕文土器破片、頁岩剥片、黒曜石剥片
011	欠番					
012	調査区中央・土坑群C	120	115	15	ややしまった10YR3/3細粒土	縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器破片。黒曜石剥片
013	調査区中央・土坑群C	125	95	10	ややしまった10YR3/3細粒土	弥生時代の条痕文土器、黒曜石剥片など
014	調査区中央・土坑群C	145	120	22	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR3/4細粒土が20%混じる	弥生時代の櫛描波状文土器破片、安山岩系石材破片
015	調査区中央・土坑群C	160	120	19	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR3/3細粒土が20%混じる	種類不明の金属製品1点、弥生時代の条痕文土器破片、頁岩、黒曜石剥片
016	1号住居東1m	90	90	18	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	出土遺物なし
017	1号住居東4m	95	95	22	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	弥生時代の土器破片4点、縄文土器破片4点、黒曜石剥片、頁岩剥片
018	調査区北西角・土坑群A	100	90	25	ややしまった10YR3/3細粒土。	9号土坑に切られる。出土遺物なし。
019	調査区東端・土坑群D	80	80	20	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR2/3細粒土が30%混じる。	2号掘立柱建物と重複。弥生時代の土器破片4点。1点は赤彩あり。
020	調査区東端・土坑群D	70	70	20	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR4/4細粒土が30%混じる。	2号掘立柱建物と重複。弥生時代の土器破片1点、黒曜石剥片1点
021	2号住居北側5m	130	110	32	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR3/4細粒土が20%混じる。	人頭大礫多数。縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片6点、黒曜石剥片2点
022	調査区東端・土坑群D	108	108	15	しまった10YR2/2粘質土に10YR3/3粘質土が20%、焼土粒子1%が混じる。	石英破片1点、頁岩剥片1点
023	調査区中央・土坑群C	90	90	36	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土、焼土粒子が1%混じる。	弥生時代の土器破片19点、黒曜石剥片1点
024	3号住居南東4m	122	92	8	ややしまった10YR3/1細粒土に10YR4/6細粒土が2%、炭化物粒子1%が混じる。	出土遺物なし
025	3号住居南2m	100	95	35	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土が15%、炭化物粒子1%が混じる。	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片1点、頁岩剥片1点
026	3号住居南東3m	140	126	32	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR6/8細粒土が2%混じる。	人頭大礫が混じる。弥生時代の土器破片5点、頁岩製打製石斧1点、黒曜石剥片6点
027	3号住居南東2m	158	150	37	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が10%、炭化材小片、焼土粒子が1%混じる。（石組直上）ややしまった10YR2/1細粒土に炭化材小片が1%混じる。	底部に石組がある集石土坑。縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器破片5点、安山岩系石材の凹石1点
028	3号住居西隣		160	30(55)	（石組内）ややしまった10YR2/3シルト粒土に10YR5/6シルト粒土が5%、炭化材小片が1%混じる。	底部に石組がある集石土坑。弥生時代土器破片2点、縄文時代中期初頭五領ヶ台式土器破片など10点、黒曜石剥片1点
029	欠番					
030	調査区北西角・土坑群A	68	65	25	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR6/6細粒土が1%、焼土粒子が1%、炭化物粒子1%が混じる。	31号土坑と同一遺構とした。37号土坑を切る。弥生時代の条痕文土器破片3点、縄文時代の土器破片11点、黒曜石剥片1点、頁岩剥片1点
031	欠番					30号土坑と同一遺構とした。
032	調査区西端	76	76	22	ややしまった10YR4/4細粒土に10YR6/6細粒土が1%混じる。	弥生時代の条痕文土器破片1点、縄文時代の土器破片6点、黒曜石剥片3点など
033	調査区西端	110	110	33	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	縄文時代中期、五領ヶ台式、井戸尻式土器破片4点
034	調査区東端・土坑群D	65	90	40	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土が2%混じる。	5号ピットと重複する。出土遺物なし。
035	欠番					
036	3号住居内	120		70	10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	3号住居を切る。弥生時代の条痕文土器2点、縄文時代中期初頭の土器20点など

番号（DK）	位置	径（長軸×短軸）×深さ、cm			埋土質	出土遺物・調査所見等
037	調査区北西角・土坑群A	100	80	25	10YR2/3細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	30号土坑と52号土坑に切られる。縄文時代中期五領ヶ台式土器破片6点
038	1号住居内	110	105	29	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	3号住居とピットに切られる。弥生時代の条痕文土器破片2点、縄文時代中期五領ヶ台式土器破片12点、黒曜石剥片2点など
039	1号住居内	108	80	16	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土3%、炭化物粒子が2%混じる。	土坑内の礫が残ることから1号住居を切っていると思われる。出土遺物なし。
040	1号掘立柱建物東側	67	60	13	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	黒曜石剥片1点
041	1号住居内	85			10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が混じる。	39号土坑に切られる。縄文時代の土器破片2点、磨石2点
042	調査区北西角・土坑群A	125		20	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土2%、焼土粒子1%、炭化物粒子が1%混じる。	弥生時代の条痕文土器破片1点、縄文時代早期の土器破片2点、黒曜石剥片3点
043	調査区北西角・土坑群A	105		40	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR5/8細粒土が1%混じる。	1号土坑に切られる。52号土坑を切る。弥生時代の土器破片1点、黒曜石剥片1点
044	調査区北西角・土坑群A	140		45	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	50号土坑に切られる。弥生時代の細密縄文土器破片ほか5点、黒曜石剥片4点
045	調査区北西角・土坑群A	120	120	27	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	縄文時代の土器破片6点、黒曜石剥片5点
046	調査区北西角・土坑群A	130		20	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/6細粒土が5%混じる。	9号、63号土坑を切る。弥生時代?の土器破片1点、縄文時代中期の土器破片など5点、黒曜石剥片3点
047	調査区北西角・土坑群A	150	150	50	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	弥生時代の条痕文土器破片4点、縄文時代中期五領ヶ台式土器破片など3点、頁岩剥片1点
048	調査区中央・土坑群C		70	15	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。	2号住居と重複する。縄文時代の土器破片6点
049	欠番					3号住居とした。
050	調査区北西角・土坑群A	133	133	45	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/6細粒土が10%混じる。	44号土坑を切る。縄文時代の土器破片1点、頁岩剥片1点など
051	調査区北西角・土坑群A	130	110	21	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	頁岩剥片1点
052	調査区北西角・土坑群A	80	80	30	しまった10YR3/4細粒土に10YR6/4細粒土が3%混じる。	37号土坑を切る。1号、43号土坑に切られる。銭種不明の銭貨2枚が重なって出土。
053	調査区北西角・土坑群A		135	31	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	出土遺物なし。
054	調査区南東角	210	185	42	しまった10YR3/2細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。	国産の近世陶磁器1点
055	欠番					3号住居とした。
056	調査区中央・土坑群C	220	130	35	固くしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が20%混じる。	本来は、2基の土坑と思われる。出土遺物なし。
057	調査区中央・土坑群C	80		20	固くしまった10YR3/2細粒土に10YR5/6細粒土が10%混じる。	出土遺物なし。
058	調査区中央・土坑群C		110	10	固くしまった10YR2/3細粒土に10YR5/6細粒土10%、炭化物粒子が1%混じる。	57号土坑、25号ピットに切られる。出土遺物なし。
059	調査区中央・土坑群E	185	175	20	固くしまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土5%、焼土粒子1%、炭化物粒子が1%混じる。	土坑底部に環状に礫が並ぶ。縄文時代中期五領ヶ台式土器破片3点
060	調査区南東角・土坑群F	160	160	90	固くしまった10YR3/3細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	1号掘立柱建物と重複。弥生時代の条痕文土器破片1点、縄文土器破片4点
061	調査区北西角・土坑群A	135		25	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/3細粒土が20%混じる	珪質頁岩製石器1点
062	調査区北西角・土坑群A	130	95	13	しまりのない10YR3/3細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	63号、64号土坑に切られる。出土遺物なし
063	調査区北西角・土坑群A	130		15	しまりのない10YR3/3細粒土に10R4/3細粒土が20%混じる。	30号、62号土坑を切る。46号土坑に切られる。弥生時代の土器破片3点、縄文時代中期五領ヶ台式土器破片1点、黒曜石剥片10点
064	調査区北西角・土坑群A	120		10	ややしまった10YR4/3細粒土に10YR3/3細粒土が30%混じる。	30号土坑を切る。8号、43号、52号土坑に切られる。縄文時代中期五領ヶ台式土器破片5点、黒曜石剥片3点
065	調査区北西角・土坑群A			10	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	44号、50号、67号土坑に切られる。弥生時代の土器破片2点、縄文時代中期の土器破片4点
066	調査区北西角・土坑群A			10	しまった10YR3/4細粒土に10YR3/3細粒土が50%混じる。	9号、30号、50号土坑に切られる。弥生時代の土器破片1点、縄文時代の土器破片5点、黒曜石剥片3点
067	調査区北西角・土坑群A	170		28	しまった10YR3/3細粒土に10YR2/3細粒土が5%混じる。	44号、53号土坑に切られる。65号土坑を切る。弥生時代の土器破片4点、縄文時代の土器破片6点、黒曜石剥片1点
068	調査区中央・土坑群C	85		55	固くしまった10YR2/2細粒土に10YR4/3細粒土が10%、焼土粒子が1%、炭化物粒子が1%混じる。	弥生時代の土器破片1点、縄文時代の土器破片43点、黒曜石剥片5点

第3表　ピット観察表

番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm			埋土質	出土遺物・調査所見等
001	1号住居南西1m	47	20	17	しまった10YR3/3細粒土に10YR5/6細粒土が10%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が1%混じる。
002	1号住居南西2m	50	50	10	しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土
003	1号住居南西2m	25	26	12	しまった10YR2/2粘質土に炭化物粒子が1%混じる。	
004	1号住居南1m	24	25	31	しまった10YR3/3細粒土に10YR5/6細粒土が混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土
005	1号掘立柱建物北東2m	36	36	10	しまった10YRYR3/3細粒土に10YR5/6細粒土が3%、炭化物粒子が1%混じる。	弥生時代の土器破片2点
006	1号住居南1m	43	43	14	しまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が7%混じる。	
007	1号住居南1m	45	45	20	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が3%、炭化物粒子が5%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土。縄文時代早期の土器破片1点
008	1号住居南1m	45	45	14	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が2%、炭化物粒子が1%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土
009	1号住居南1m	50	50	12	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が30%、炭化物粒子が7%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土。縄文時代中期初頭の土器破片1点
010	2号掘立柱建物西2m	50	50	11	しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%、焼土粒子が1%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土
011	1号掘立柱建物北東3m	45	45	17	しまった10YR3/3細粒土に10YR5/6細粒土が3%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土
012	1号掘立柱建物北東2m	33	33	13	しまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土が2%混じる。	
013	1号掘立柱建物北東2m	27	27	15	しまった10YR2/2細粒土に焼土粒子が1%混じる。	
014	1号掘立柱建物	23	23	16	しまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土が3%混じる。	
015	1号住居南隣	46	30	7	しまった10YR3/3細粒土に10YR6/6細粒土が2%混じる。	
016	1号住居南隣	52	51	9	しまった10YR2/3細粒土に10YR3/3細粒土が3%混じる。	弥生時代の土器破片1点
017	1号住居内	37	34	8	しまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が1%、焼土粒子が1%混じる。	38号土坑を切る。
018	1号住居内	14	29	7	しまった10YR2/2細粒土に10YR4/5細粒土が3%、炭化物粒子が1%混じる。	38号土坑を切る。
019	1号住居内	32	36	17	しまった10YR2/2細粒土に炭化物粒子が1%混じる。	
020	1号掘立柱建物	33	33	20	しまった10YR2/2細粒土に10YR5/8細粒土が3%、焼土粒子が1%混じる。	22号ピットを切る。黒曜石剥片1点
021	1号住居内	35	28	10	しまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が1%、焼土粒子が1%、炭化物粒子が1%混じる。	
022	1号掘立柱建物	50	48	22	しまった10YR2/2細粒土に10YR5/8細粒土が1%、炭化物粒子が1%混じる。	20号ピットに切られる。
023	1号掘立柱建物東2m	42	35	14	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	
024	1号住居北西1m	43	43	17	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR5/6細粒土が1%混じる。	56号、68号土坑を切る。弥生時代の土器破片1点
025	2号住居南隣	45	46	15	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	57号、58号土坑を切る。縄文時代中期初頭の土器破片4点
026	1号掘立柱建物内	26	24	8	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	
027	1号掘立柱建物	46	46	25	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	縄文時代中期の土器破片3点
028	1号掘立柱建物	40	41	25	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が2%混じる。	
029	1号掘立柱建物	26	35	27	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が1%混じる。	
030	1号掘立柱建物	34	30	29	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	
031	1号掘立柱建物	30	35	10	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/2細粒土が3%混じる。	
032	1号掘立柱建物	33	33	16	しまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が2%混じる。	弥生時代の土器破片1点
033	2号住居内	30	33	30	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	
034	2号住居南3m	25	25	15	固くしまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が2%混じる。	時期不明の土器破片1点、黒曜石剥片1点
035	2号住居南3m	30	30	8	固くしまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が5%混じる。	
036	2号住居南西3m	25	25	15	固くしまった10YR2/2細粒土に10YR4/6細粒土が2%混じる。	
037	1号住居東1m	35	35	20	しまった10YR3/2細粒土に10YR4/4細粒土が10%混じる。	
038	2号住居内	38	38	6	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%混じる。	
039	2号住居内	32	32	6	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%混じる。	
040	2号住居内	43	43	9	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%混じる。	

番号(PT)	位置	径(長軸×短軸)×深さ、cm			埋土質	出土遺物・調査所見等
041	2号住居内	45	45	13	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%混じる。	
042	2号住居内	40	40	12	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	
043	2号住居内	36	36	7	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4が5%混じる。	
044	2号住居内	33	33	8	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4が10%混じる。	
045	2号掘立柱建物	34	34	14	固くしまった10YR4/4細粒土に10YR3/3細粒土が10%、焼土粒子が1%、炭化物粒子が1%混じる。	柱痕　10YR2/2細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。
046	2号掘立柱建物南東	34	34	20	固くしまった10YR4/4細粒土に10YR3/3細粒土が10%、焼土粒子が1%、炭化物粒子が1%混じる。	柱痕　しまった10YR3/2細粒土。
047	2号掘立柱建物	43	43	8	固くしまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	柱痕　しまった10YR3/2細粒土。
048	2号掘立柱建物東	45	45	8	固くしまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	柱痕　しまった10YR2/2細粒土。
049	2号掘立柱建物	50	50	13	固くしまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	柱痕　しまった10YR2/2細粒土。
050	2号掘立柱建物	48	48	9	しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%、焼土粒子が1%、炭化物粒子が1%混じる。	柱痕　固くしまった10YR2/2細粒土。
051	3号住居				しまった10YR3/3細粒土に10YR4/6細粒土が20%混じる。	3号住居柱穴
052	1号掘立柱建物	45	45	23	固くしまった10YR3/2細粒土に10YR4/6細粒土が10%混じる。	

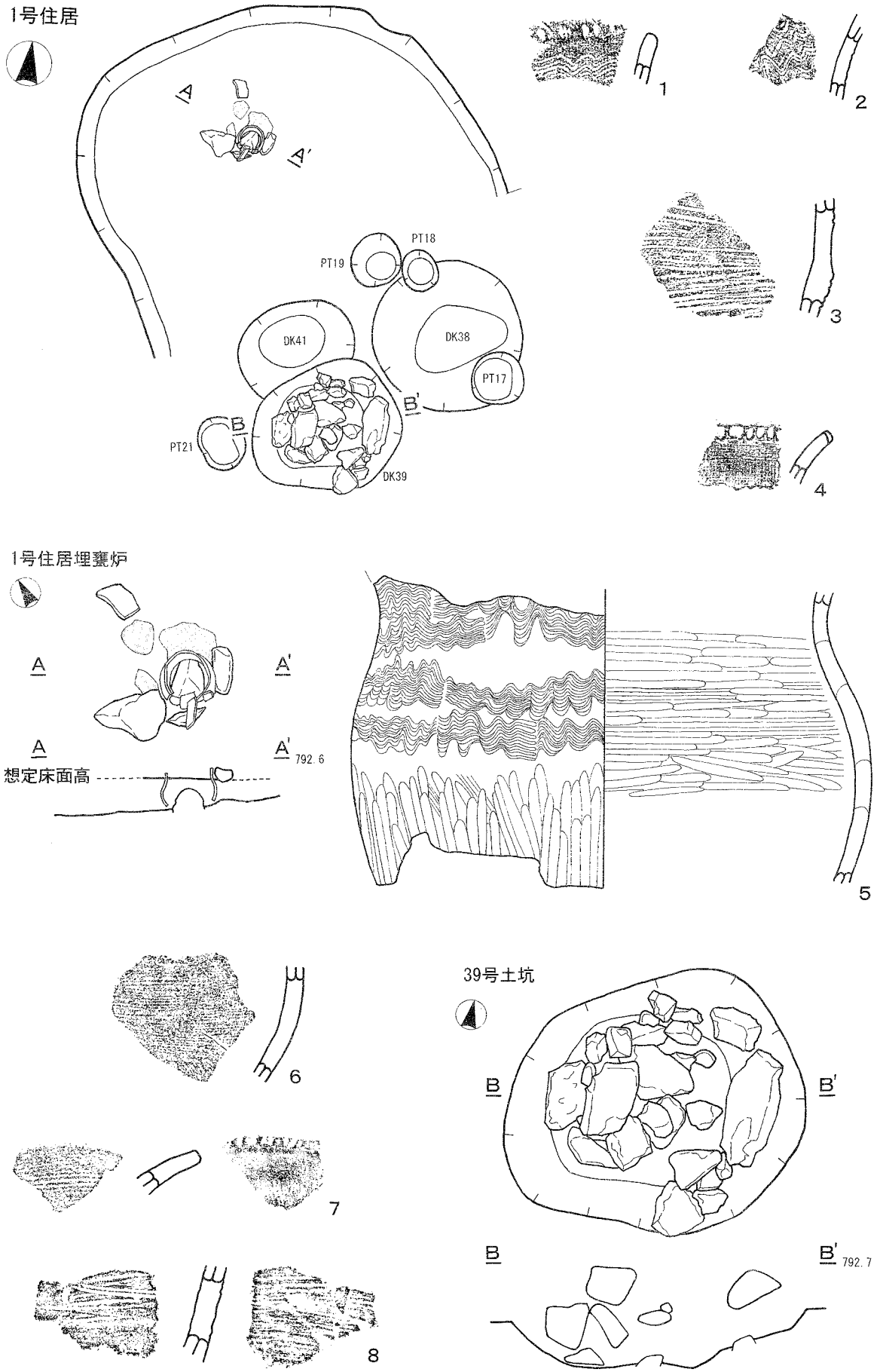
第4表　土器観察表

図版番号	遺構番号	時代	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土色調	残存度	重量(g)	特徴、胎土質、釉調、出土位置
6図1	1 号住居	弥生時代	深鉢				5YR5/6(明赤褐)	小破片	4	口唇部刻み、胴部櫛描波状文。内面ミガキ。長石、石英粒子が混じる粗粒の胎土。
6図2	1 号住居	弥生時代					5YR5/6(明赤褐)	小破片	4	櫛描波状文。内面ミガキ。長石、石英粒子が混じる粗粒の胎土。
6図3	1 号住居	弥生時代					7.5YR5/4(にぶい褐)	小破片	15	条痕文。内面横方向のナデ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
6図4	1 号住居	弥生時代					5YR5/4(にぶい赤褐)	小破片	2	口唇部刻み。外面ナデ、内面ミガキ。長石、石英粒子が混じるやや粗粒の胎土。
6図5	1 号住居	弥生時代	深鉢				10R5/8(赤)	1/3	506	1号住居埋甕炉の炉体土器。外面櫛描波状文、縦・斜方向のナデ。内面横方向のミガキ。上端の割れ面は磨耗が進む。下端は若干の磨耗あり。外面は二次的被熱があり風化が進むが、内面はさほどではない。長石、石英粒子が混じる粗粒の胎土。
6図6	1 号住居	弥生時代					7.5YR5/3(にぶい橙)	小破片	10	外面櫛描文、内面ナデ。少量の長石、石英、赤色鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。
6図7	1 号住居	弥生時代					7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	6	口唇部に刻み。外面ナデ。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
6図8	1 号住居	弥生時代					7.5YR4/3(褐)	小破片	17	内外面条痕文。長石、石英、多量の金色雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
7図1	2 号住居	弥生時代	壷				5YR6/6(橙)	小破片	46	外面縦方向のミガキ、内面横ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
7図2	2 号住居	弥生時代					7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	10	外面櫛描文。内面櫛描文とミガキ。長石、石英粒子が混じるやや粗粒の胎土。
7図3	2 号住居	弥生時代	深鉢	(20.6)			7.5YR6/3(にぶい褐)	小破片	10	口唇部刻み。内外面ミガキ。長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる粗粒の胎土。
7図4	2 号住居	弥生時代					7.5YR6/6(橙)	小破片	13	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
7図5	2 号住居	弥生時代					5YR5/4(にぶい赤褐)	小破片	9	口唇部に刻み。外面は凹線文と浮線。長石、石英粒子が混じる粗粒の胎土。
8図1	3 号住居	縄文時代	深鉢	32.3			2.5YR5/6(明赤褐)	1/2	2500	埋甕炉の炉体土器。中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
8図2	3 号住居	縄文時代	深鉢			9.8	(にぶい褐)	小破片	46	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
8図3	3 号住居	縄文時代	深鉢	18.0			7.5YR6/6(橙)	小破片	25	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図1	3 号住居	縄文時代	深鉢				7.5YR5/4(にぶい褐)	小破片	31	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図2	3 号住居	縄文時代	深鉢				5YR6/6(橙)	小破片	182	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図3	3 号住居	縄文時代	深鉢				7.5YR4/4(褐)	小破片	22	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図4	3 号住居	縄文時代	深鉢				7.5YR5/4(にぶい褐)	小破片	21	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図5	3 号住居	縄文時代	深鉢				器外面:7.5YR5/3(にぶい褐) 器内面:7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	42	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図6	3 号住居	縄文時代	深鉢				7.5YR5/4(にぶい褐)	小破片	52	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図7	3 号住居	縄文時代	浅鉢				7.5YR4/4(褐)	小破片	28	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図8	3 号住居	縄文時代	深鉢				器外面:7.5YR3/2(黒褐) 器内面:7.5YR4/6(褐)	小破片	11	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
9図9	3 号住居	縄文時代	深鉢				器外面:7.5YR5/2(灰褐) 器内面:7.5Y6/4(にぶい橙)	小破片	27	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
10図3	3 号土坑	弥生時代					(黒褐)	小破片	7	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
10図4	21 号土坑	縄文時代	深鉢				5YR6/4(にぶい橙)	小破片	34	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
11図2	27 号土坑	縄文時代	深鉢				7.5YR5/4(にぶい褐)	小破片	10	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
12図1	28 号土坑	縄文時代	深鉢				器外面:10YR5/3(にぶい黄褐) 器内面:10YR5/2(灰黄褐)	小破片	38	口縁部下に3本の押引き隆帯(1本は剥落)。中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
12図2	28 号土坑	弥生時代					10YR5/3(にぶい黄褐)	小破片	9	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
13図1	7 号土坑	弥生時代					(にぶい黄橙)	小破片	24	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
13図2	7 号土坑	弥生時代					(にぶい黄橙)	小破片	20	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
13図3	10 号土坑	弥生時代					(にぶい褐)	小破片	10	口唇部刻み。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
13図4	61 号土坑	弥生時代					5YR5/4(にぶい赤褐)	小破片	16	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土
14図1	31 号土坑	弥生時代					7.5YR5/4(にぶい褐)	小破片	23	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
14図2	47 号土坑	弥生時代					(にぶい黄橙)	小破片	24	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
14図3	53 号土坑	弥生時代	壷			3	10YR6/4(にぶい黄橙)	小破片	175	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。

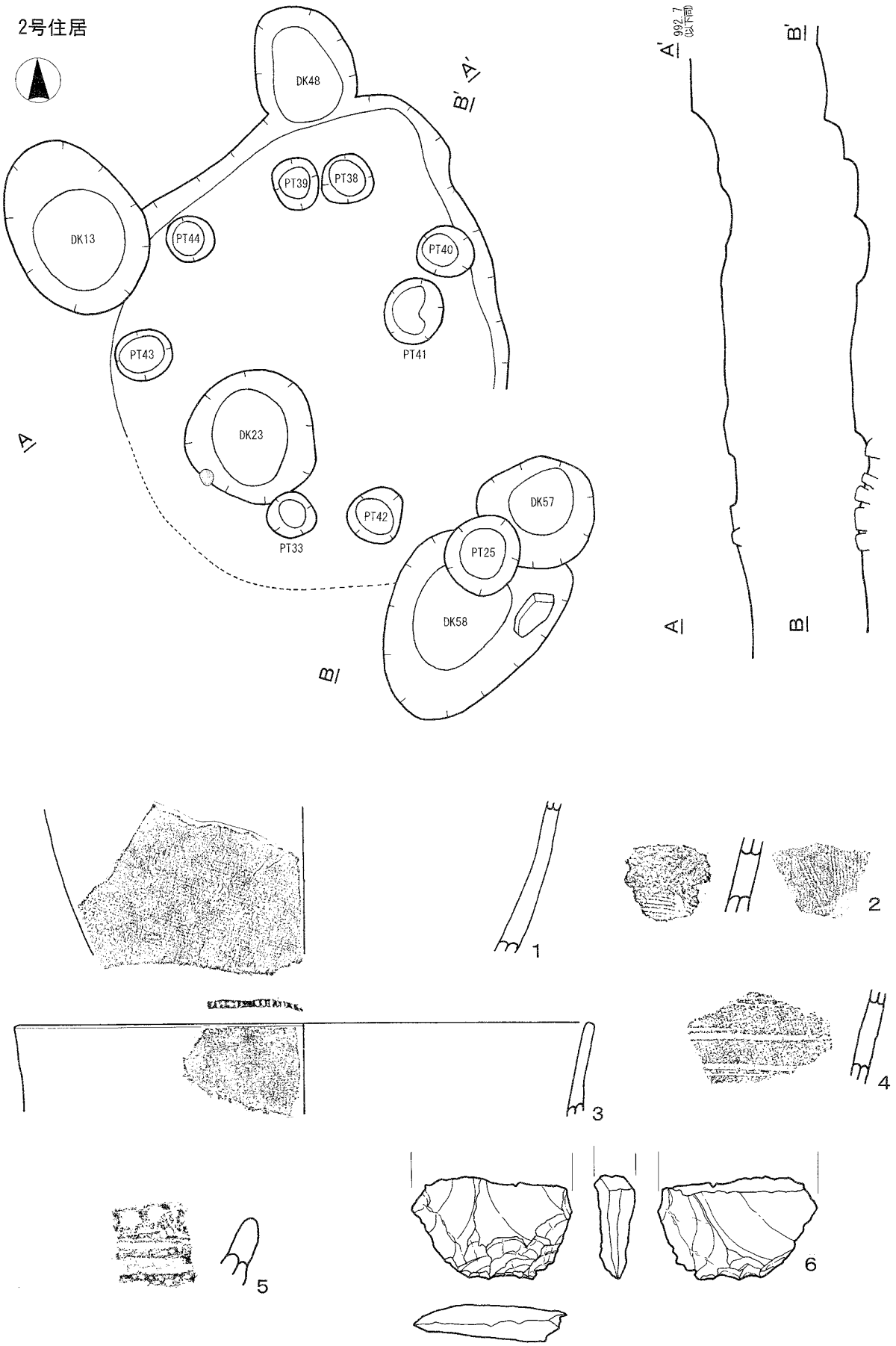
図版番号	遺構番号	時代	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土色調	残存度	重量(g)	特徴、胎土質、釉調、出土位置
14図4	62 号土坑	縄文時代	深鉢				器外面:5YR3/2(暗赤褐) 器内面:5YR5/4(にぶい赤褐)	小破片	89	中期初頭か?長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
14図5	65 号土坑	弥生時代					7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	13	外面条痕文。内面ミガキ。少量の長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
14図6	65 号土坑	弥生時代					7.5YR7/4(にぶい橙)	小破片	15	外面細密な縄文。内面横方向のナデ。少量の長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
14図7	66 号土坑	弥生時代	壷				10YR6/4(にぶい黄橙)	小破片	13	外面細密な縄文。内面横ミガキ。少量の長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
14図8	1 号土坑	縄文時代					(にぶい黄橙)	小破片	18	前期末。波状口縁部下に2本の結節浮線文。
14図9	1 号土坑	縄文時代					(にぶい赤褐)	小破片	23	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
14図10	8 号土坑	弥生時代					(にぶい黄橙)	小破片	12	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
15図1	8 号土坑	弥生時代					(にぶい黄橙)	小破片	8	外面縄文。内面ミガキ。口唇部折り返し状に段あり。長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
15図2	44 号土坑	弥生時代					(にぶい黄橙)	小破片	26	外面縄文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。縄文土器か。
15図3	67 号土坑	弥生時代					10YR5/3(にぶい黄褐)	小破片	20	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
15図4	5 号土坑	弥生時代					7.5YR4/2(灰褐)	小破片	9	櫛描波状文と簾状文。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
16図1	12 号土坑	縄文時代					(にぶい赤褐)	小破片	3	前期末。3本の結節浮線文と格子状に貼り付けた細い浮線文。長石、石英粒子が混じるきめの細かい胎土。
16図2	12 号土坑	縄文時代					器外面:5YR6/4(にぶい橙) 器内面:7.5YR5/3(にぶい褐)	小破片	251	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
16図3	13 号土坑	弥生時代					(黒褐)	小破片	6	外面櫛描波状文。口唇部刻み。内面横ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
16図4	13 号土坑	弥生時代	広口壷	(20.0)			10YR5/4(にぶい黄褐)	小破片	53	口唇部はハケを押し付けた刻み。外内面ハケメ調整。長石、石英粒子が混じる粗粒の胎土。
16図5	38 号土坑	弥生時代					5YR6/6(橙)	小破片	7	外面櫛描波状文と円形の貼付文。長石、石英粒子が混じるやや粗粒の胎土。
18図1	60 号土坑	弥生時代					7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	15	外面細密な縄文。内面ミガキ。長石、石英粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
19図1	14 号土坑	弥生時代					7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	21	口唇部刻み。外面櫛描波状文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
19図2	15 号土坑	弥生時代					7.5YR6/4(にぶい橙)	小破片	20	外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
19図3	23 号土坑	弥生時代				7.2	器外面:7.5YR6/4(にぶい橙) 器内面:5YR5/4(にぶい赤褐)	小破片	73	外面条痕文。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
19図4	23 号土坑	弥生時代					7.5YR6/6(橙)	小破片	6	外面櫛描波状文。内面ミガキ。長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
19図5	23 号土坑	弥生時代					7.5YR3/3(暗褐)	小破片	3	外面櫛描波状文。内面ミガキ。長石、石英、赤色、黒色鉱物粒子が混じるやや粗粒の胎土。
19図6	35 号土坑	縄文時代					(にぶい黄橙)	小破片	16	中期初頭、五領ヶ台式。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。
19図7	36 号土坑	弥生時代					(灰褐)	小破片	4	口唇部刻み。外面条痕文。内面ミガキ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
19図8	50 号土坑	弥生時代					10YR6/4(にぶい黄橙)	小破片	30	刻み突帯と条痕文。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。
19図9	54 号土坑	縄文時代					7.5YR5/6(暗褐)	小破片	24	小さな突起がついた口唇部。縄文時代早期の条痕文系土器か。長石、石英、少量の繊維が混じる粗粒の胎土。
19図10	68 号土坑	弥生時代					(黒褐)	小破片	18	外面櫛描波状文と簾状文。内面ハケメ。長石、石英、雲母粒子が混じるきめのやや細かい胎土。
19図12	遺構外	弥生時代		(16.0)			5YR6/6(橙)	小破片	29	櫛描波状文。内面ミガキ。長石、石英粒子が混じるやや粗粒の胎土。
19図14	遺構外	弥生時代		12.4			(黒褐)	小破片	15	外面条痕。風化していて判然としない。長石、石英、雲母粒子が混じる粗粒の胎土。

第５表　石器観察表

図版番号	遺構番号	器種	長（ｃｍ）	幅（ｃｍ）	厚（ｃｍ）	石質	重量（g）	特徴
７図６	２号住居	打製石斧				粘板岩	25	雑な周縁部調整。刃部破片か。
９図10	３号住居	石鏃	2.2	1.5	0.5	黒曜石	1.3	
９図11	３号住居	石鏃		2.0		黒曜石	0.7	先端部、茎部片端欠損。
９図12	３号住居	石皿	17.5	21.0	6.8	安山岩	2800	未成品か
９図13	３号住居	凹石	13.8	7.1	3.7	安山岩	381	研磨痕なし
９図14	３号住居	凹石	9.5	7.8	5.0	安山岩	372	研磨痕なし
10図１	３号住居	石皿	31.3	27.0	7.4	安山岩	6700	擦り面内には敲打による凹凸あり。擦り面再生か。背面やや磨滅。
10図２	３号住居	磨石	10.8	5.2	5.1	安山岩	555	平坦面と側面に研磨痕
11図１	26号土坑	打製石斧	7.0	4.5	1.4	頁岩	52	折損品
11図３	27号土坑	敲石	13.5	8	3.4	安山岩	579	平坦な二面に敲打痕、研磨痕あり
13図５	61号土坑	ヘラ状石器	6.3	2.0	1.0	珪質頁岩	19	全周にわたり縁辺加工あり。背面には礫面が残る。
19図11	68号土坑	磨石	6.6	10.0	5.1	安山岩	512	風化しているが磨石と思われる。
19図13	遺構外	打製石斧	10.0	6.4	2.7	細粒砂岩	130	背面から基部は礫面が大きく残る。腹面は節理面あり。
19図15	遺構外	石核	5.0	6.3	2.6	黒曜石	52	乱雑な剥離の石核
19図16	遺構外	ハンマー	9.8	3.1	2.2	頁岩	100	石器製作時のハンマーか。全体に磨滅している。先端部に小さな剥離と敲打痕あり。

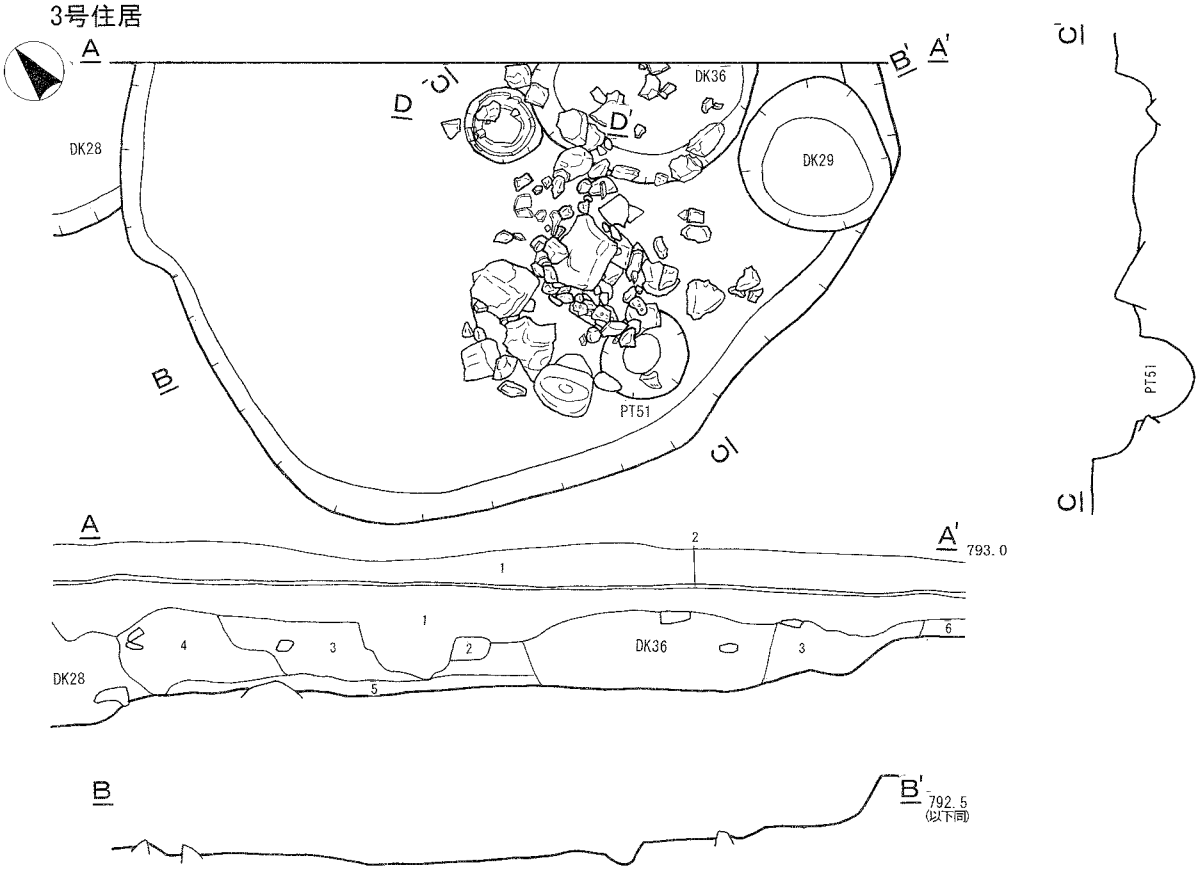


第６図　１号住居（1/40）１号住居埋甕炉、39 号土坑（1/20）出土遺物（1/2）



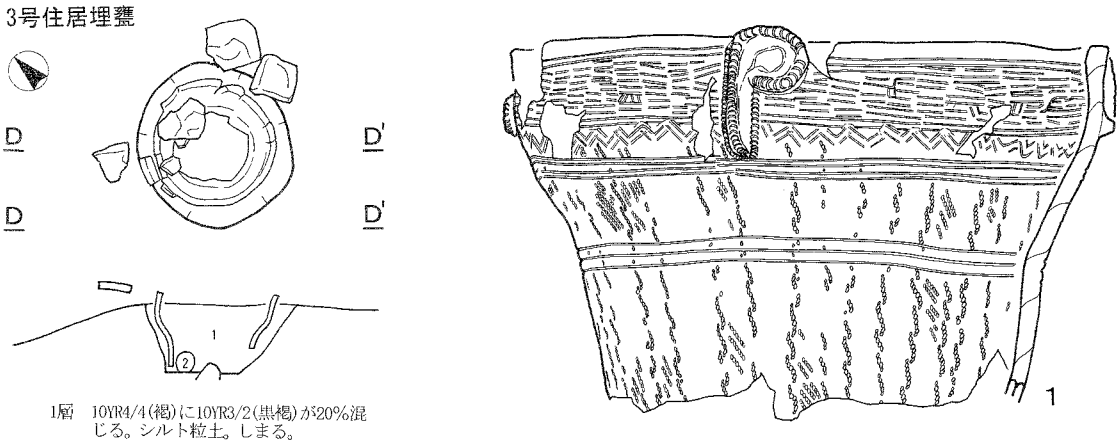
第７図　２号住居（1/40）出土遺物（1/2）

3号住居

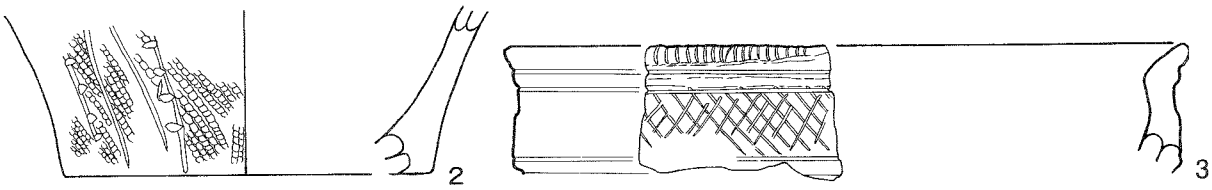


1層　表土・耕作土
2層　床土
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%混じる。細粒土。ややしまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に7.5YR4/4(褐)が20%混じる。細粒土。ややしまる。
5層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/4(暗褐)が40%、10YR3/4(暗褐)が粘土質ブロックで1%混じる。細粒土。しまる。
6層　10YR2/3(黒褐)に7.5YR4/4(褐)が30%混じる。細粒土。しまる。
壁　10YR3/4(暗褐)に7.5YR4/4(褐)が30%混じる。細粒土。しまる。
地山　10YR3/4(暗褐)に7.5YR4/4(褐)が40%混じる。細粒土。しまる。

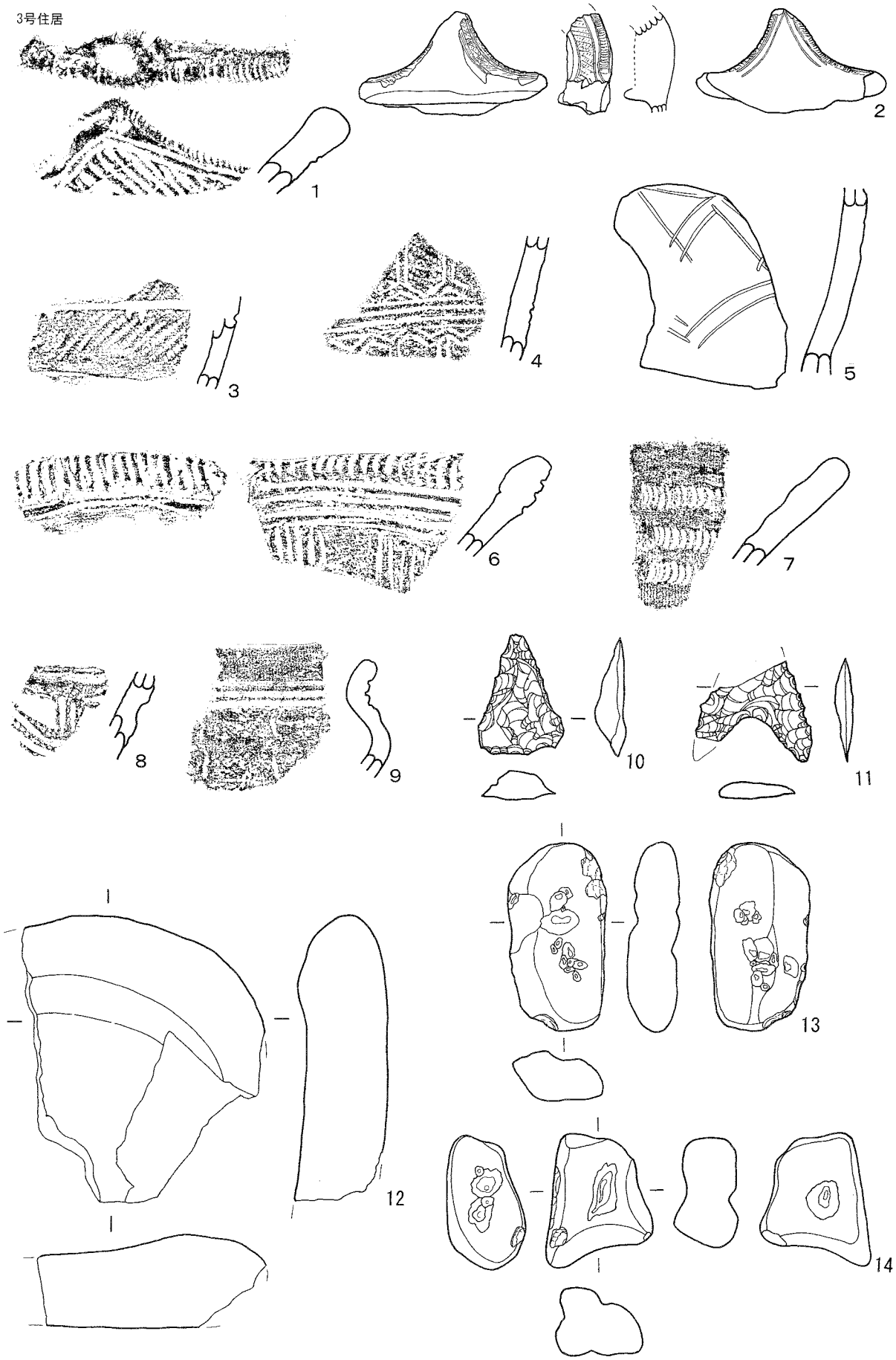
3号住居埋甕



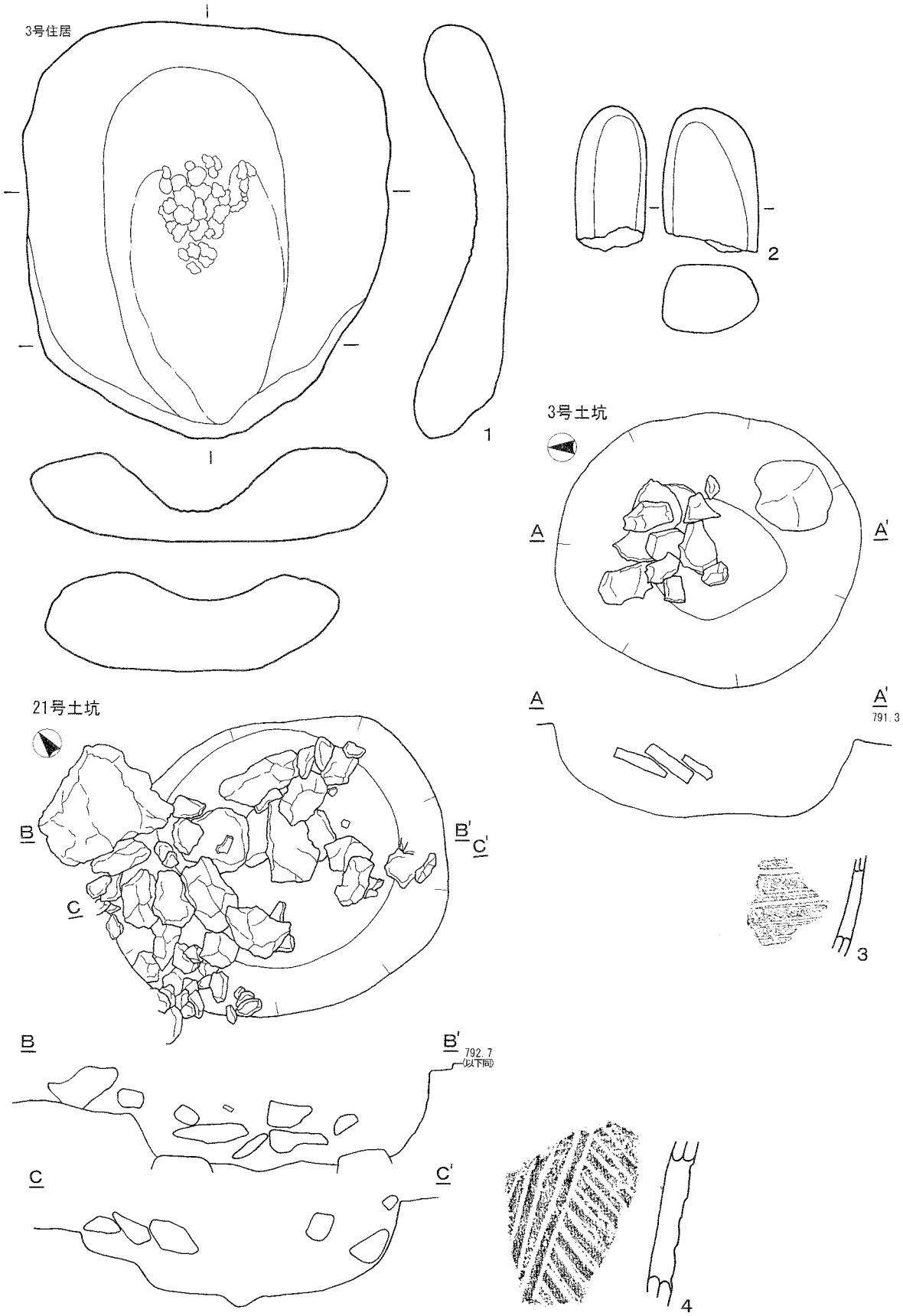
1層　10YR4/4(褐)に10YR3/2(黒褐)が20%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。しまる。



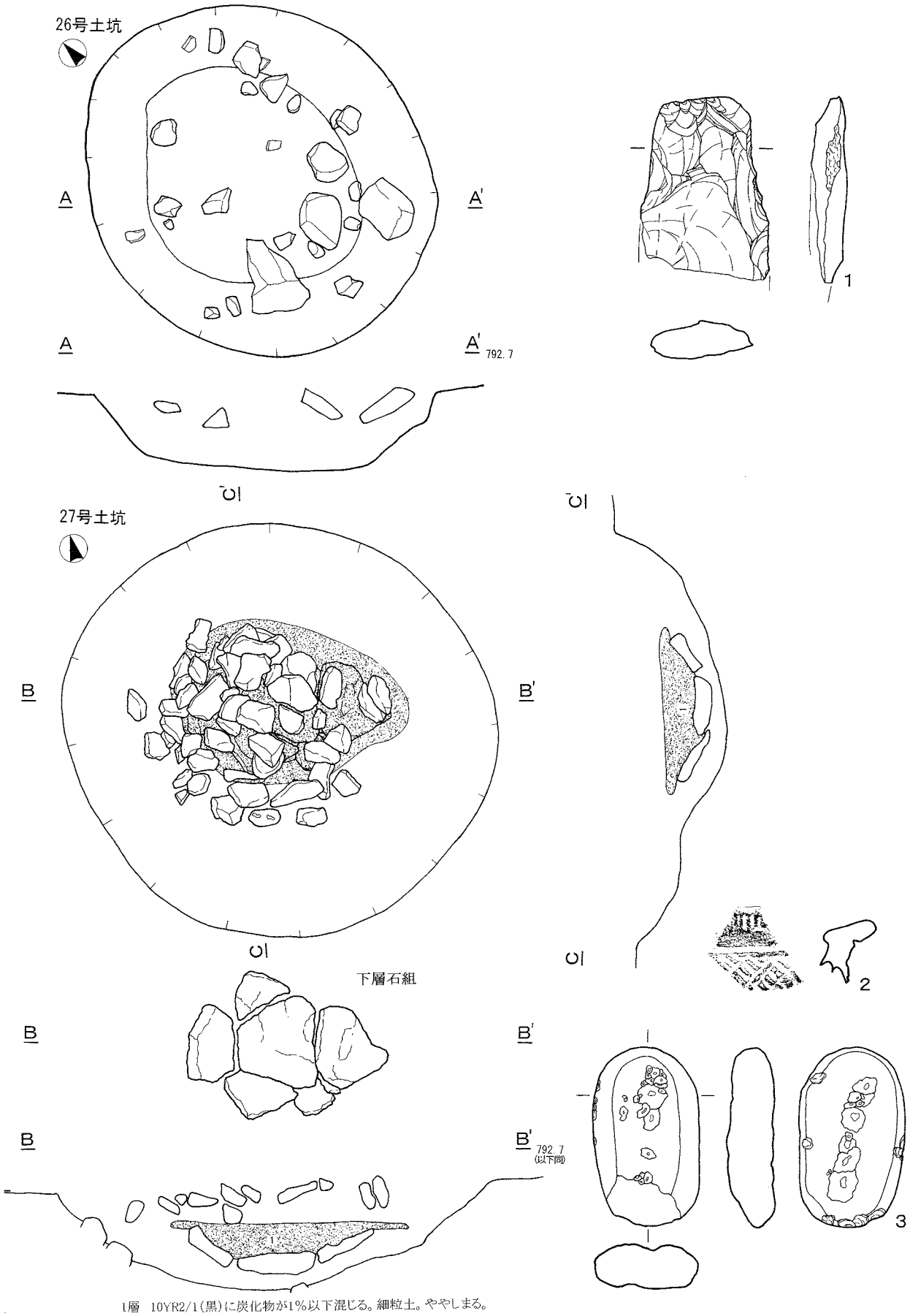
第８図　３号住居（1/40）３号住居埋甕（1/20）出土遺物（1/2、1 は 1/4）



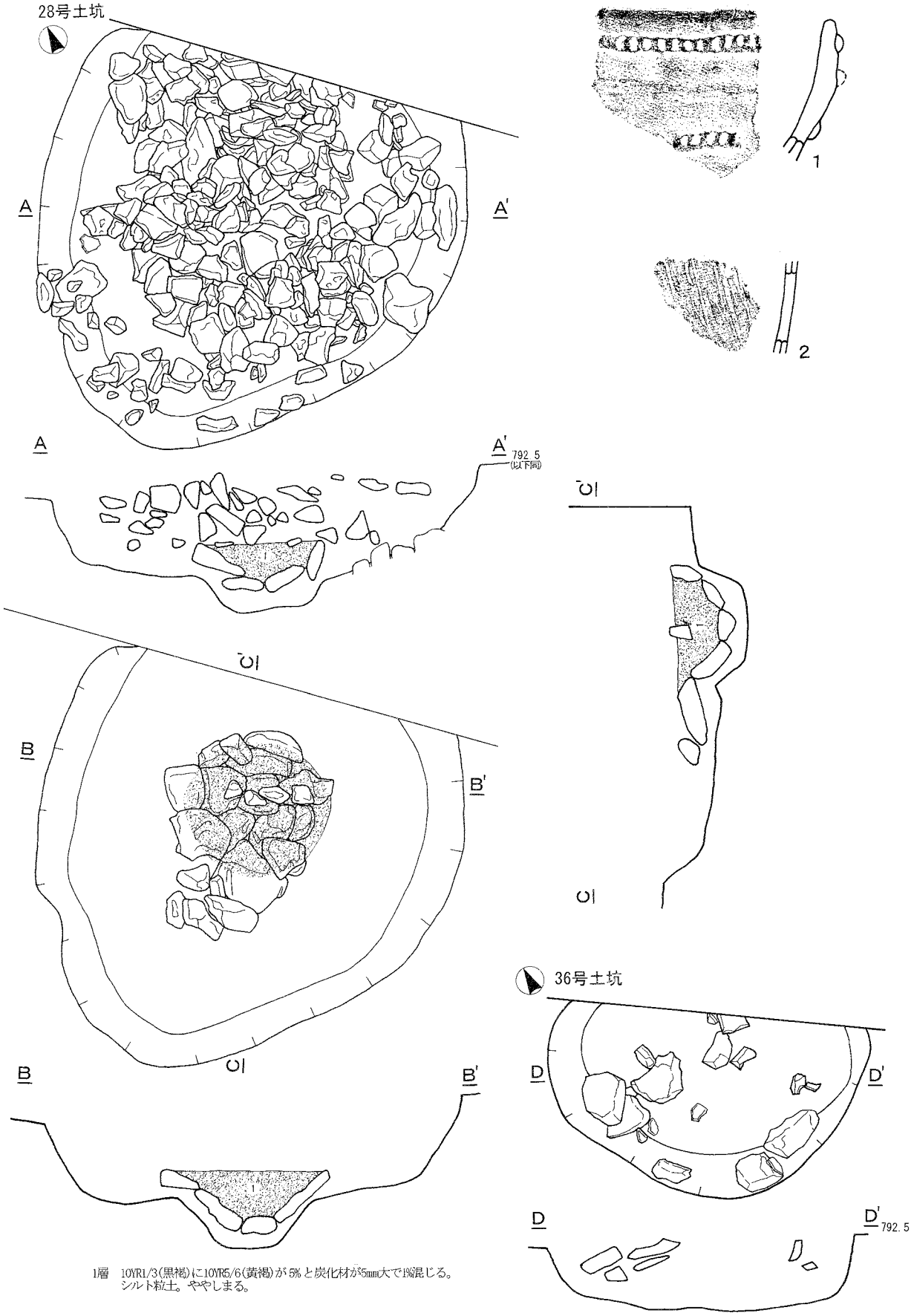
第９図　出土遺物（1/2、10・11 は 1/1、2・12～14 は 1/4）



第10図　3号、21号土坑（1/20）出土遺物（1/2、1・2は1/4）

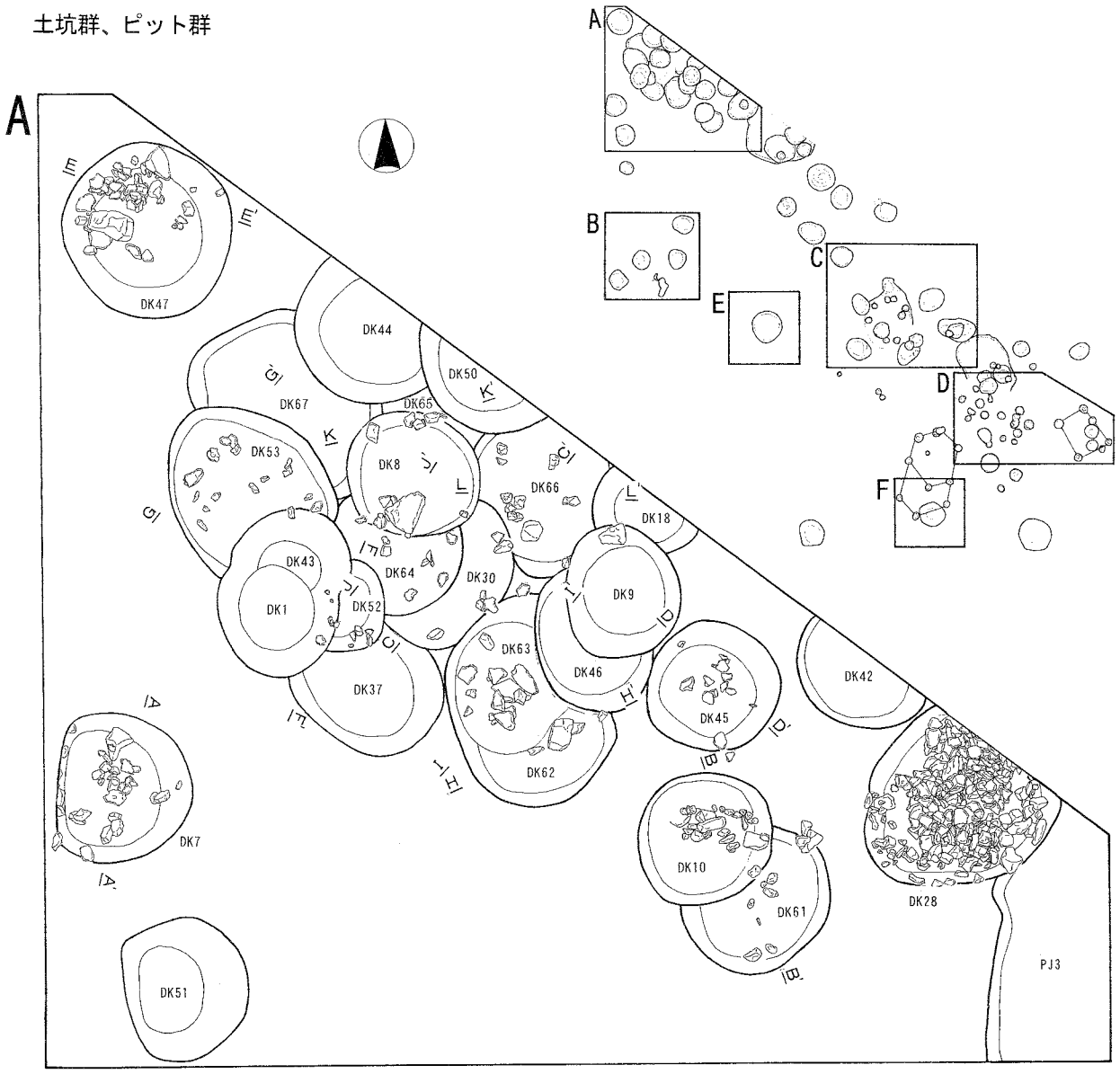


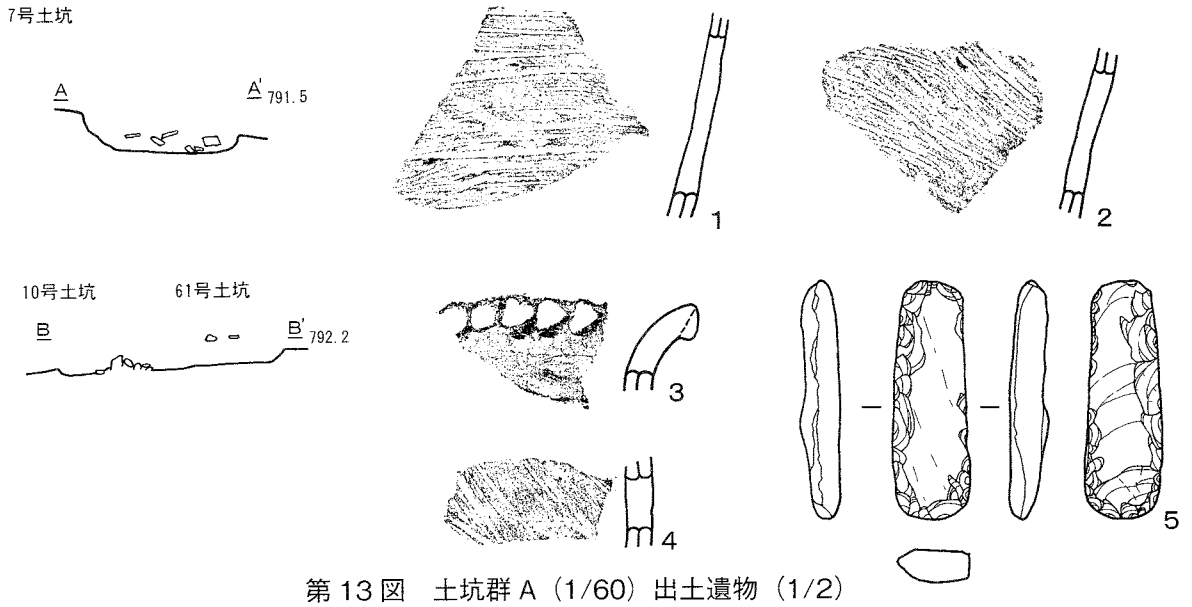
第11図　26号、27号土坑（1/20）出土遺物（1/2、3は1/4）



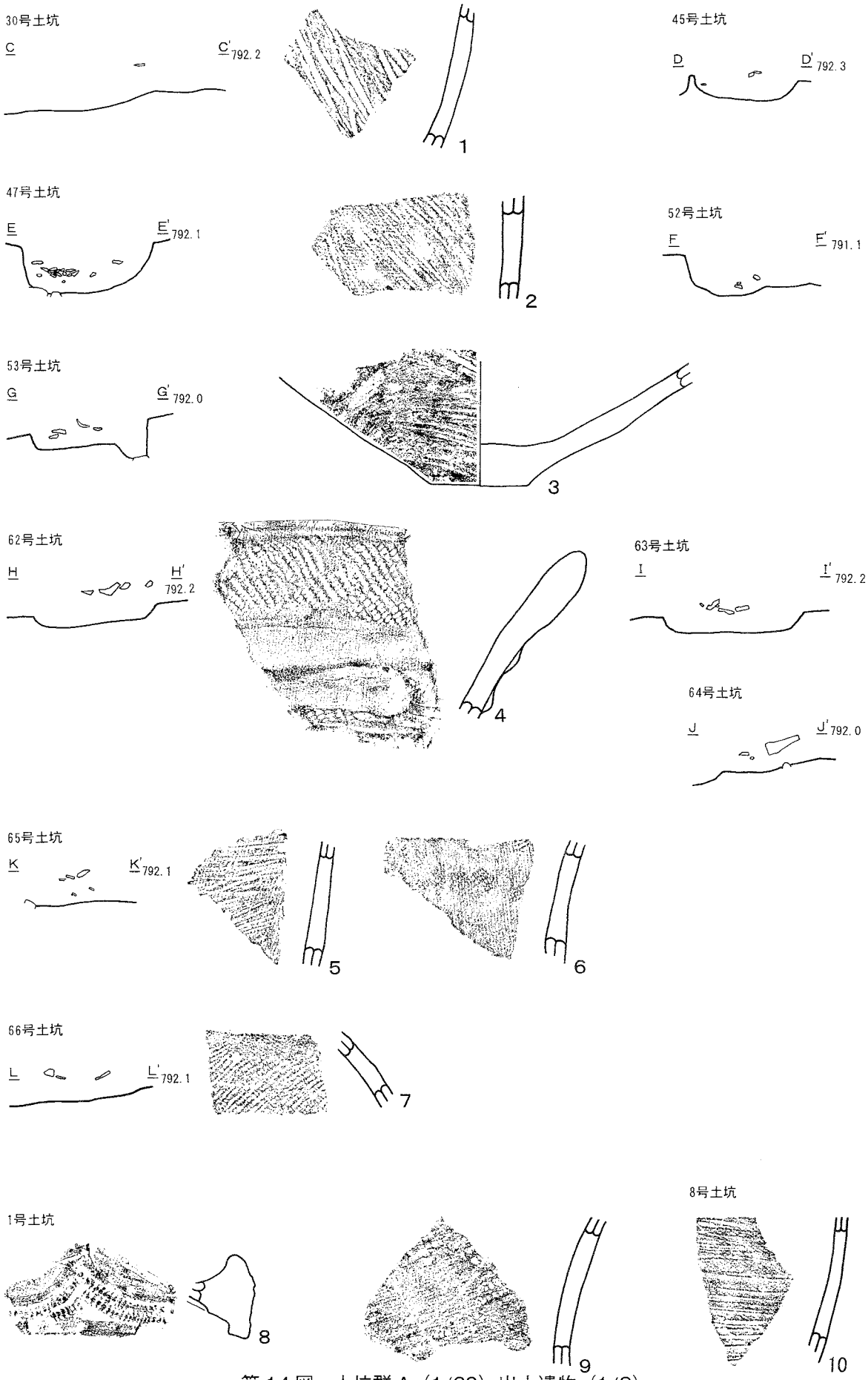
第12図　28号、36号土坑（1/20）出土遺物（1/2）

土坑群、ピット群

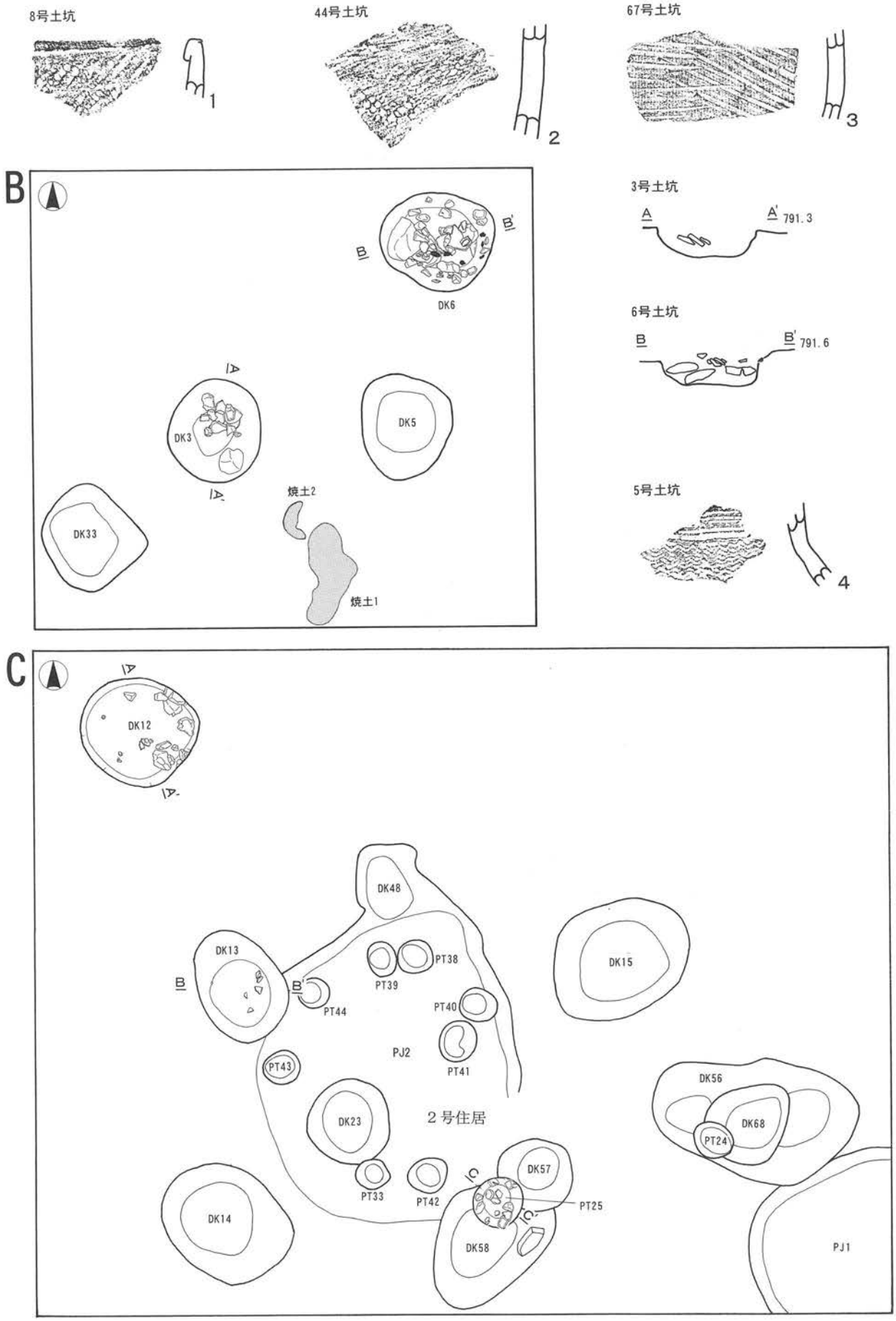




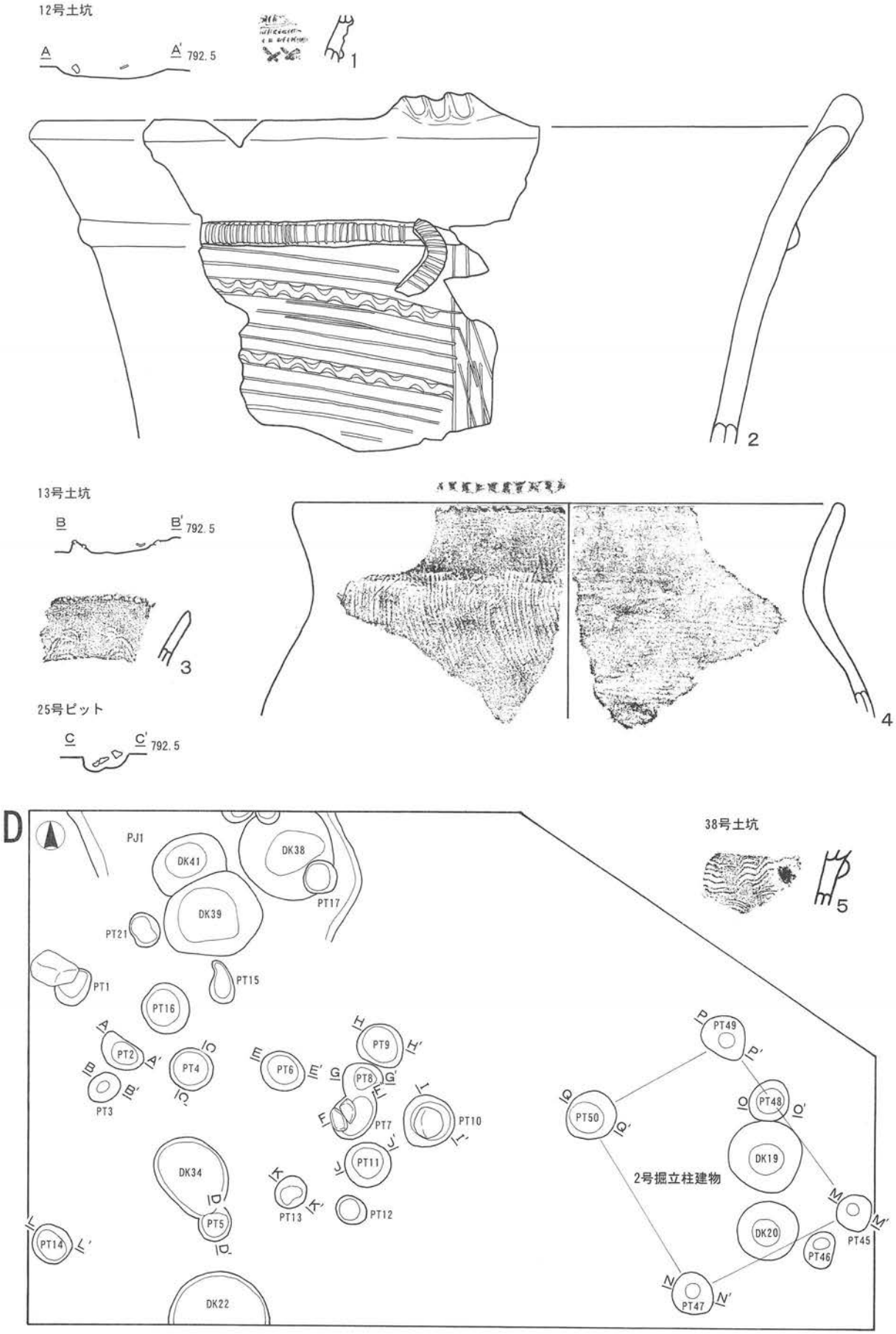
第13図　土坑群A（1/60）出土遺物（1/2）



第14図　土坑群A（1/60）出土遺物（1/2）

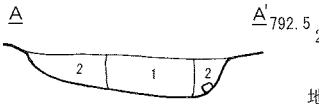


第15図　土坑群B、C（1/60）出土遺物（1/2）



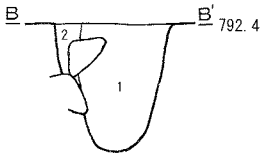
第16図　土坑群C、土坑群D（1/60）出土遺物（1/2）

2号ピット



1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が3%混じる。細粒土。固くしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。細粒土。非常に固くしまる。

3号ピット

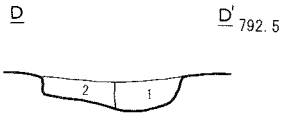


1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、炭化物が1%混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。細粒土。非常に固くしまる。

4号ピット

1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。細粒土。非常に固くしまる。

5号ピット



1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。細粒土。しまる。(柱痕)
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。細粒土。非常に固くしまる。

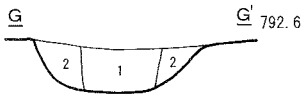
6号ピット

1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が1%混じる。細粒土。しまる。(柱痕?)
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。細粒土。固くしまる。

7号ピット

1層　10YR2/2(黒褐)に炭化物が20%混じる。細粒土。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。

8号ピット



1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が1%混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が40%混じる。細粒土。固くしまる。

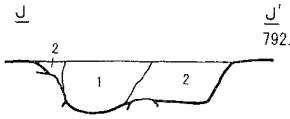
9号ピット

1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が3%、炭化物が5%混じる。細粒土。しまる。(柱痕)
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が40%混じる。細粒土。固くしまる。

10号ピット

1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。

11号ピット

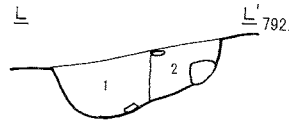


1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。細粒土。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。細粒土。しまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。

13号ピット

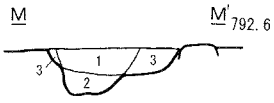
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が3%混じる。細粒土。しまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。細粒土。固くしまる。

14号ピット



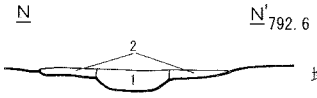
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。細粒土。非常に固くしまる。

45号ピット



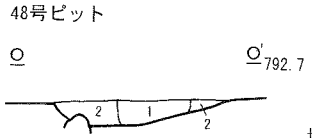
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、炭化物が1%混じる。細粒土。固くしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%混じる。細粒土。しまる。
3層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。細粒土。しまる。

47号ピット



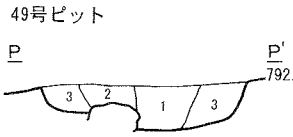
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じる。細粒土。固くしまる。

48号ピット



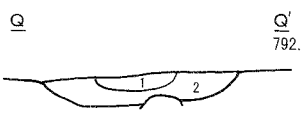
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、焼土1%以下混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%混じる。細粒土。しまりなし。
地山　10YR4/6(褐)。細粒土。固くしまる。

49号ピット



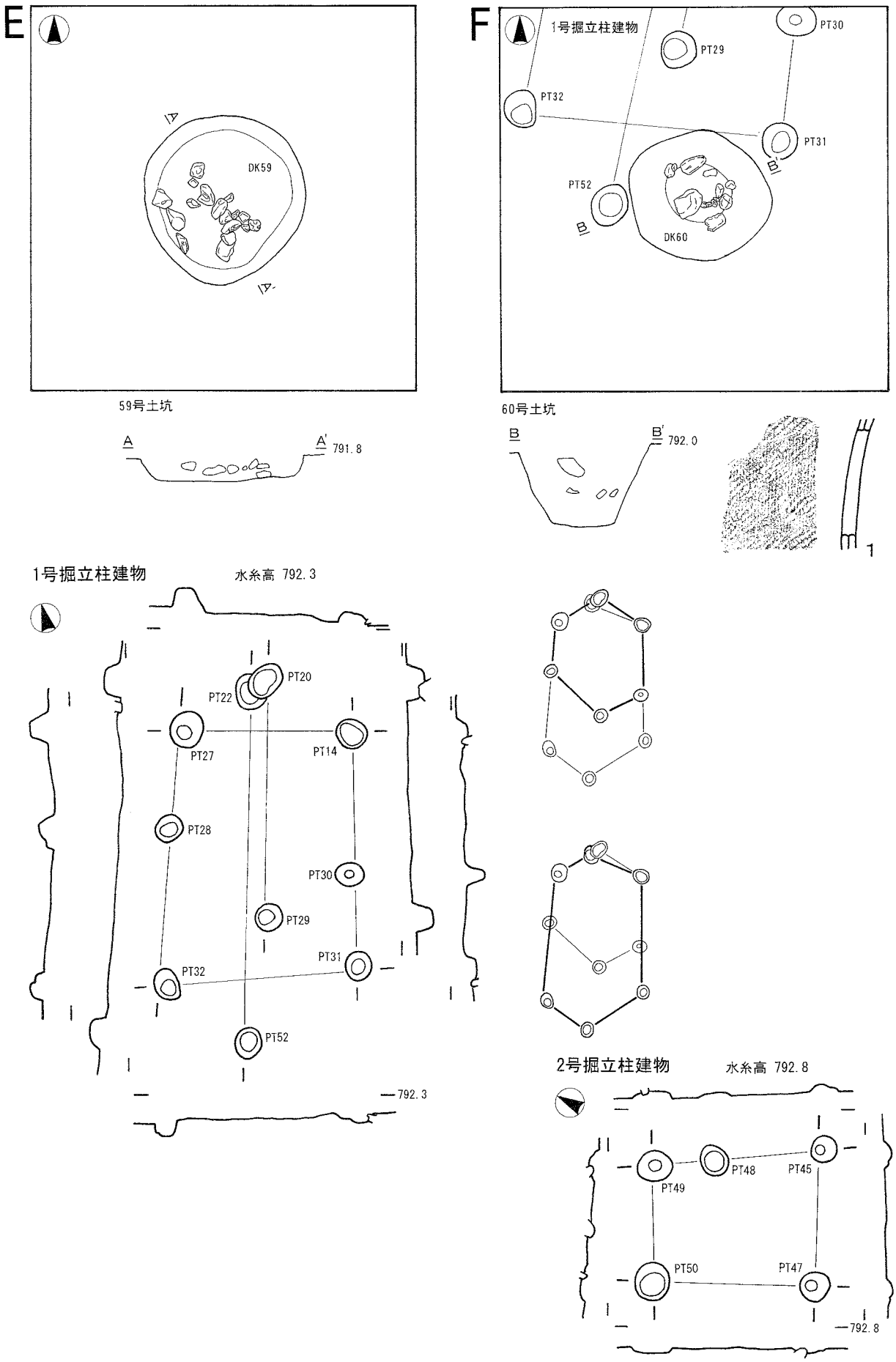
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%混じる。細粒土。固くしまる。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%混じる。細粒土。しまる。
3層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%混じる。細粒土。固くしまる。
地山　10YR4/4(褐)。細粒土。固くしまる。

50号ピット

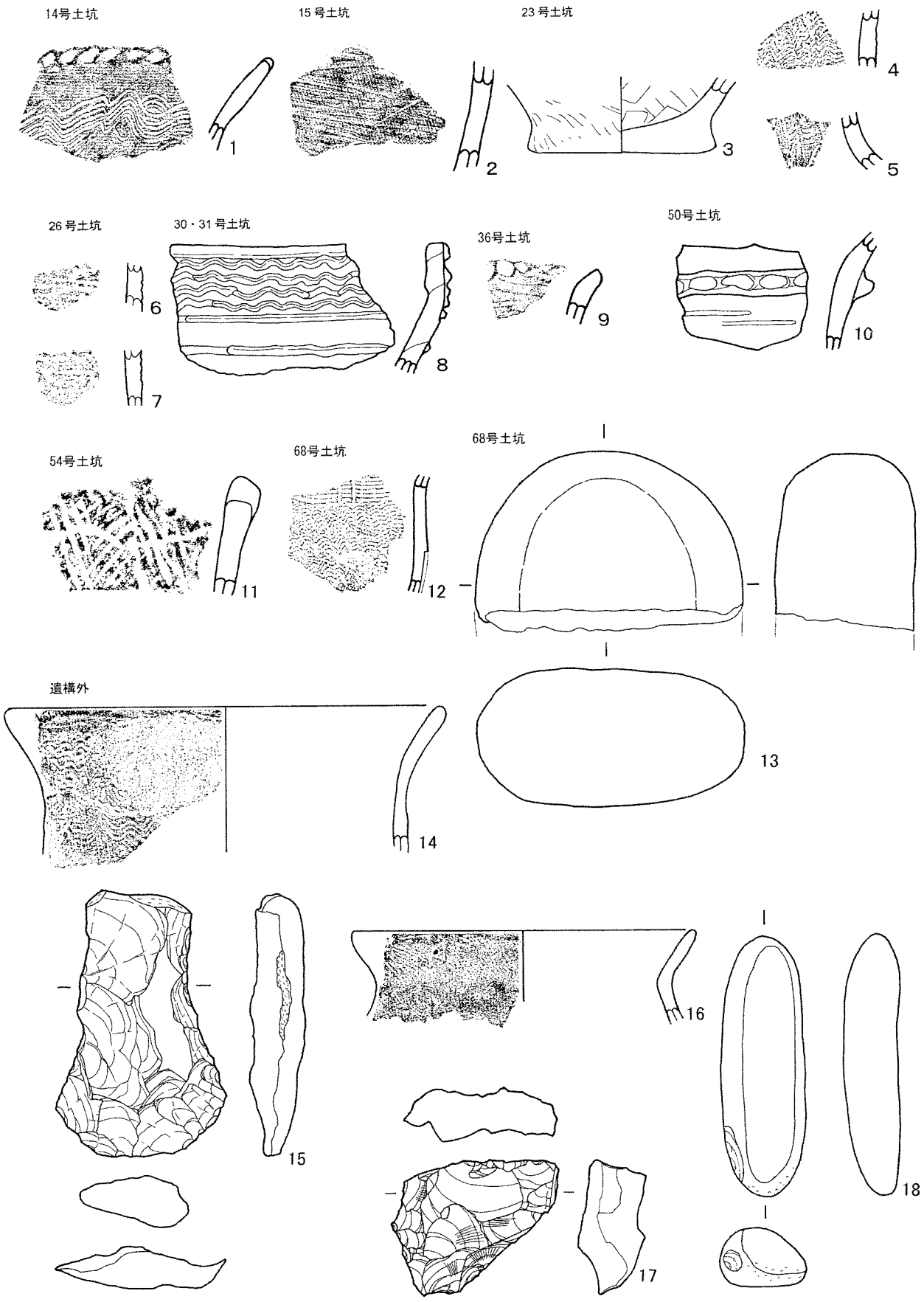


1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、焼土1%以下混じる。細粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)がブロックで20%混じる。細粒土。しまる。
地山　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。細粒土。固くしまる。

第17図　土坑群D (1/20)



第18図　土坑群E、F（1/60）出土遺物（1/2）堀立柱建物（1/80）


14号土坑
15号土坑
23号土坑
26号土坑
30・31号土坑
36号土坑
50号土坑
54号土坑
68号土坑
68号土坑
遺構外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18

第19図　出土遺物（1/2）

調査地点近景

調査地点近景

１号住居跡

１号住居炉跡検出状況

１号住居炉跡半截状況

１号住居炉跡半截状況

１号住居跡完掘状況

１号住居跡炉体土器

１号住居跡出土土器

２号住居跡完掘状況

２号住居埋土セクション

２号住居出土土器

３号住居跡完掘状況

３号住居跡完掘状況

３号住居埋土セクション

３号住居遺物出土状況

３号住居炉跡

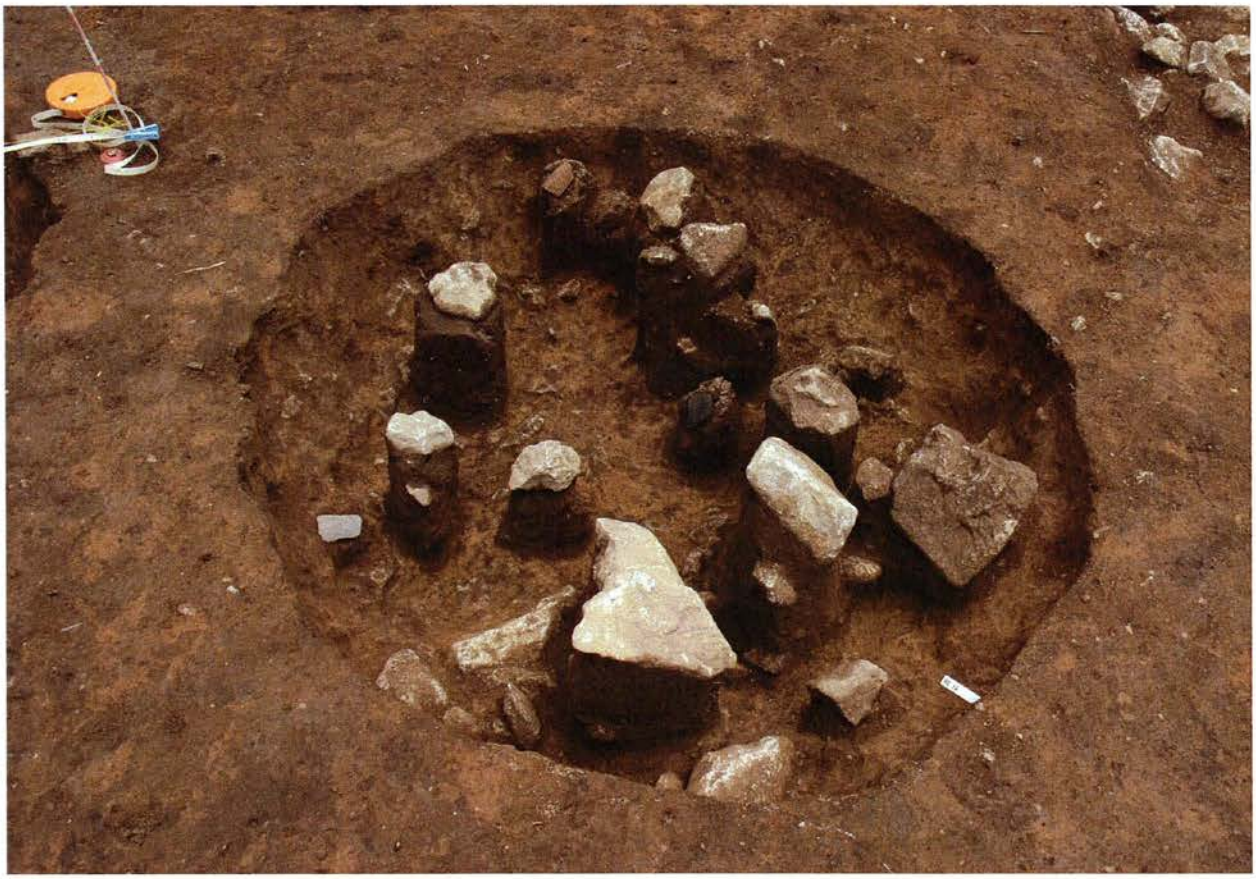
３号住居炉跡半截状況

３号住居炉体土器

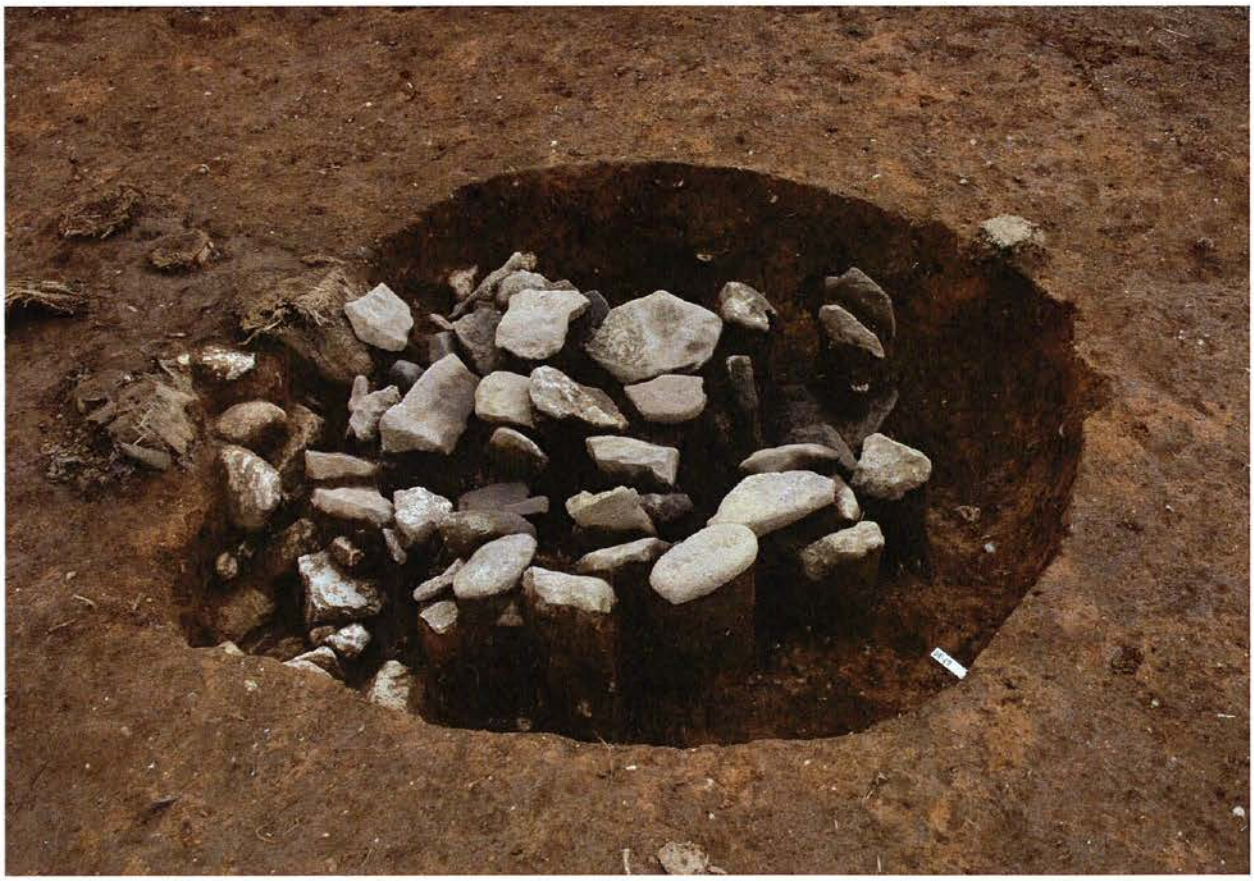
３号住居出土土器

3号土坑

21 号土坑



26 号土坑



27 号土坑上層礫検出状況

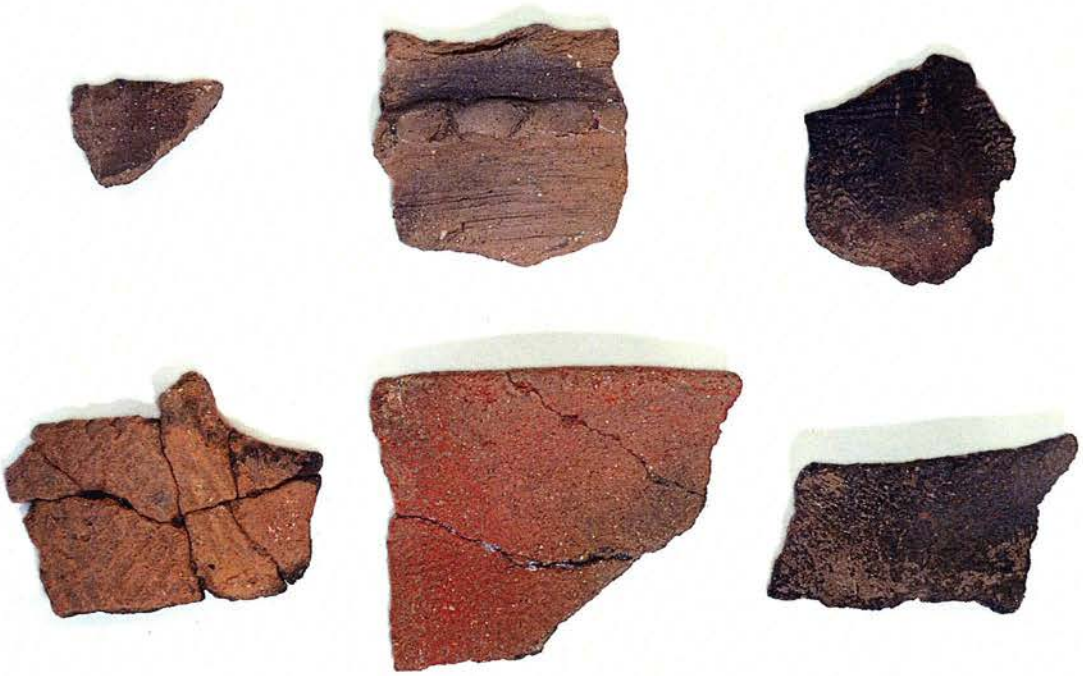
27 号土坑下層石組検出状況

28 号土坑上層礫検出状況

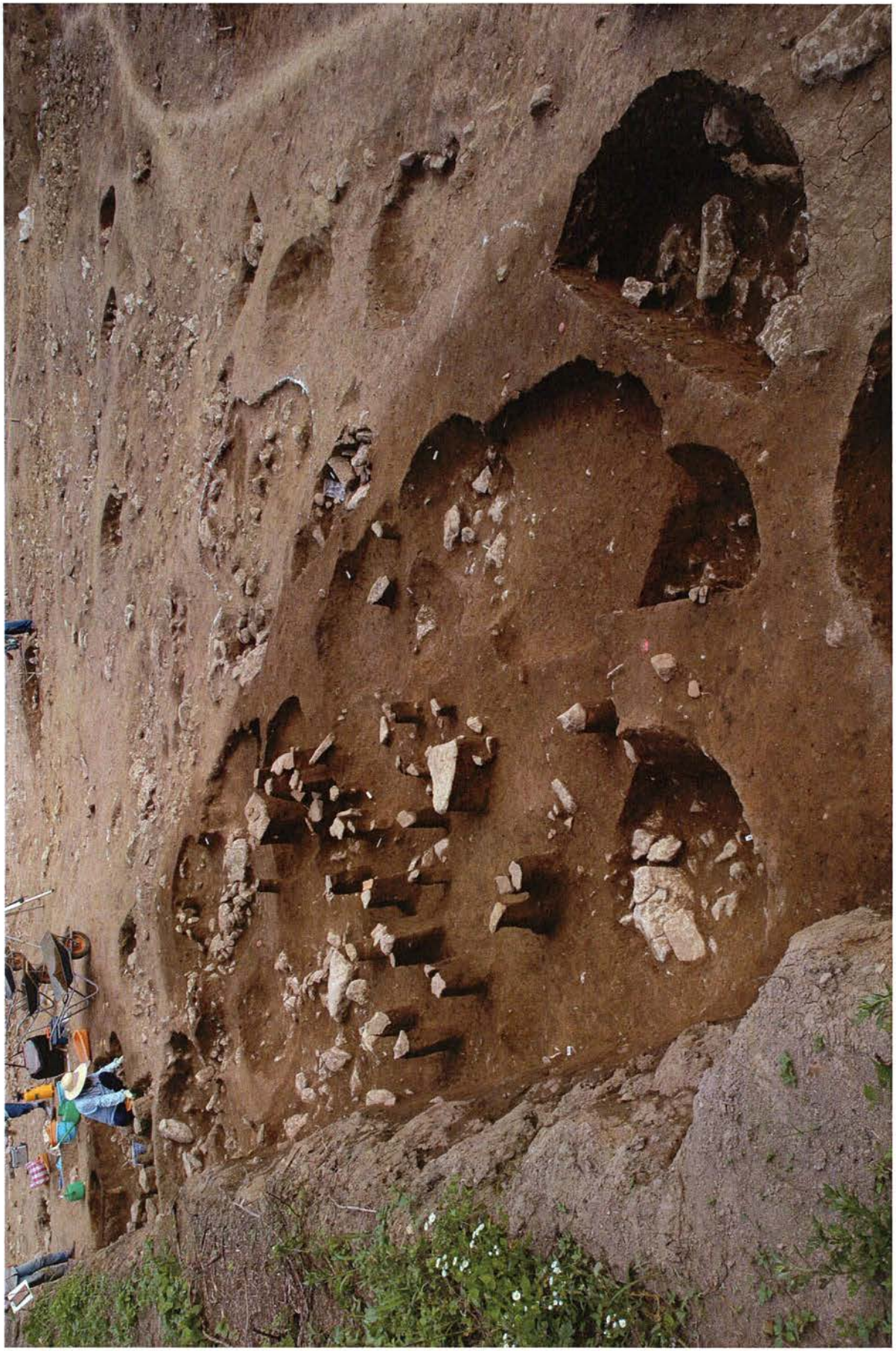
28 号土坑下層石組検出状況

3号・21 号・27 号・28 号・7号・10 号土坑出土土器

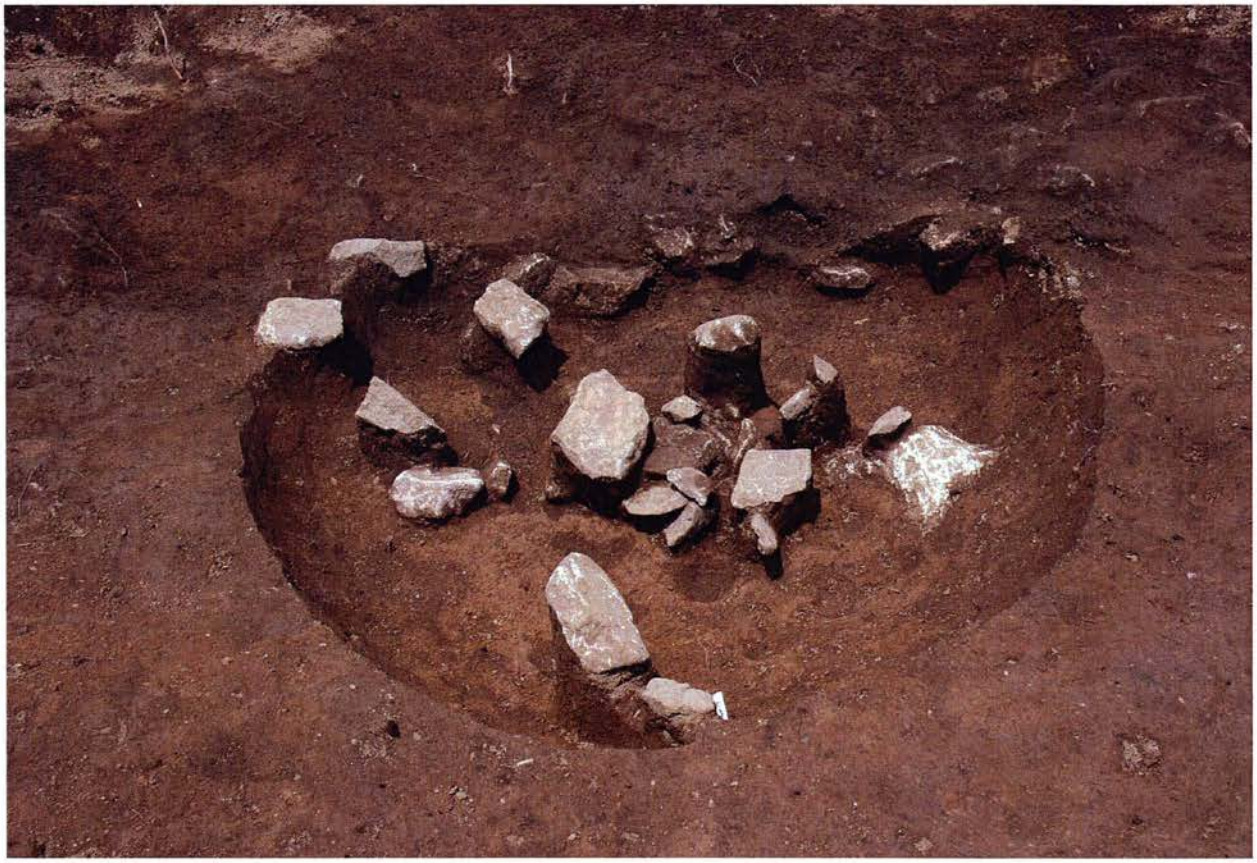
36 号土坑



36 号・50 号・54 号・68 号土坑・遺構外出土土器



土坑群Ａ（北西から）



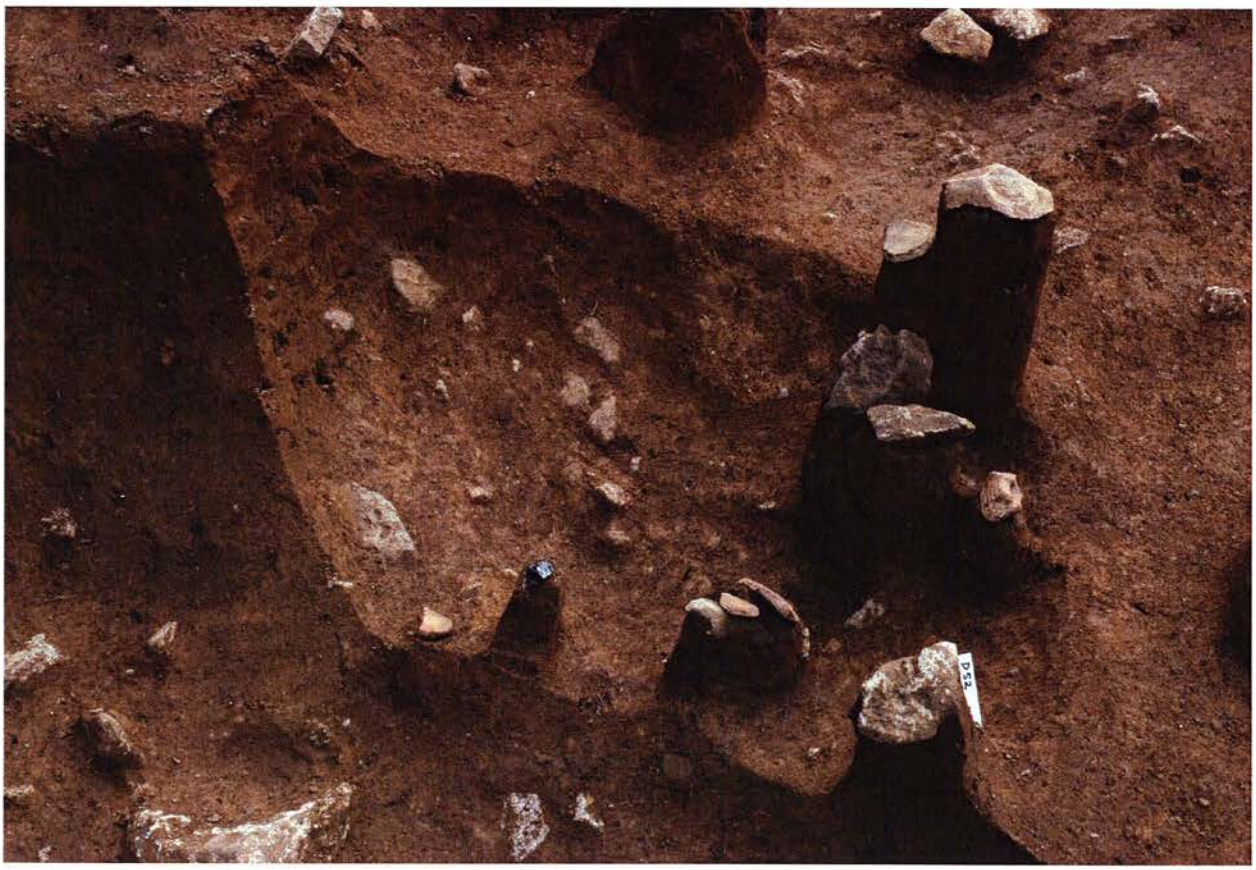
7 号土坑

10 号・61 号土坑

30 号土坑

45 号土坑

47 号土坑



52 号土坑

53 号土坑

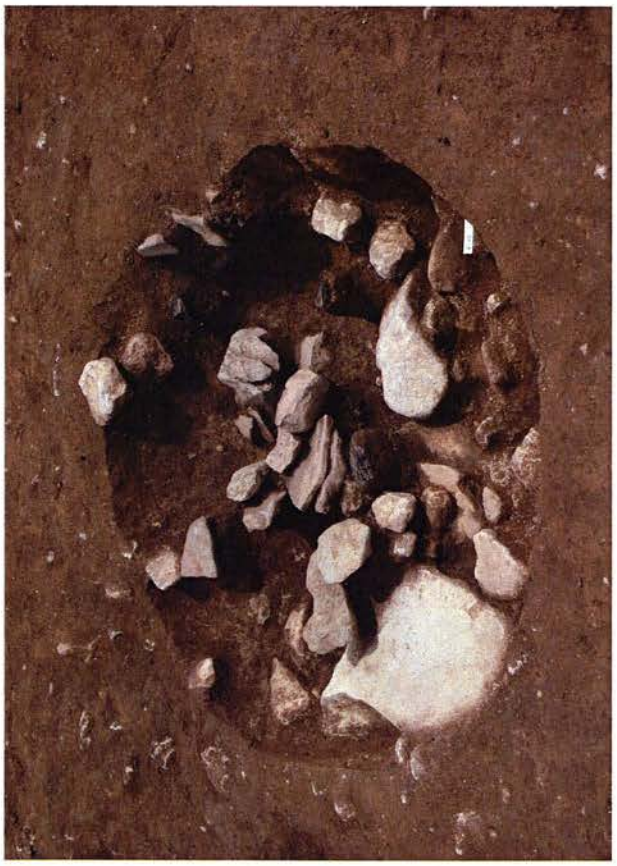
62・63 号土坑

64 号土坑

65 号土坑

30 号・47 号・53 号・62 号・65 号土坑

66 号土坑



6 号土坑

5号土坑

66号・1号・8号・44号・67号・5号土坑出土土器

12号土坑

13号土坑

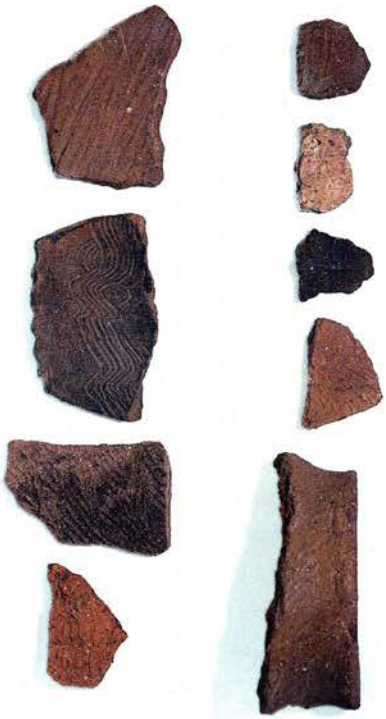
12 号・13 号土坑出土土器

25 号ピット

38 号土坑

59 号土坑

60 号土坑



38号・60号・14号・15号・23号・26号土坑出土土器

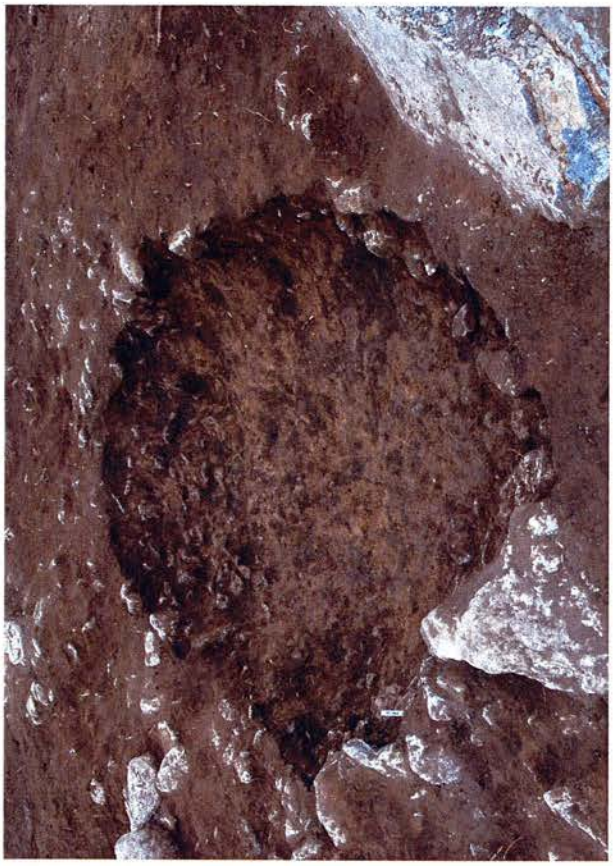
1 号堀立柱建物跡

1 号土坑

8号土坑

9号土坑

14 号土坑



15 号土坑

16 号土坑

17 号土坑

18 号土坑

19・20 号土坑

22 号土坑

23 号土坑

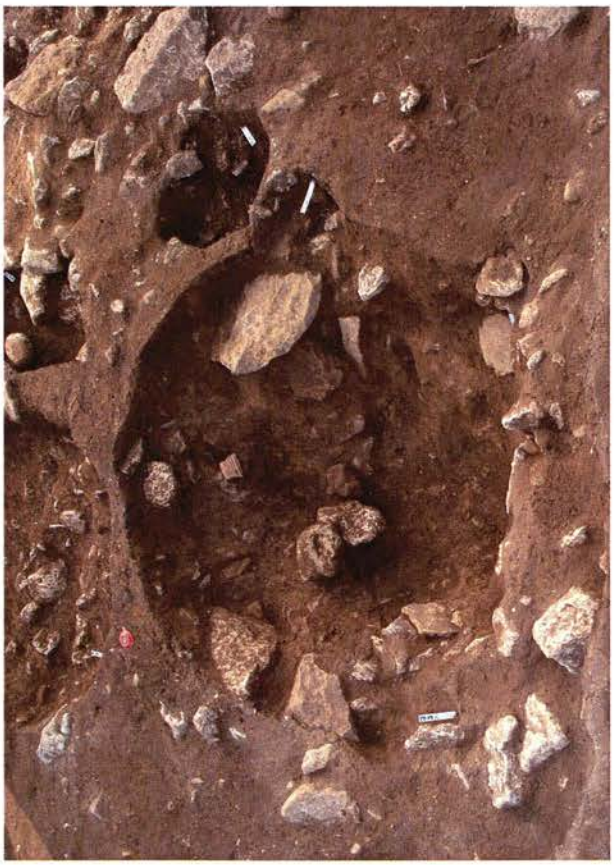
24 号土坑

25 号土坑

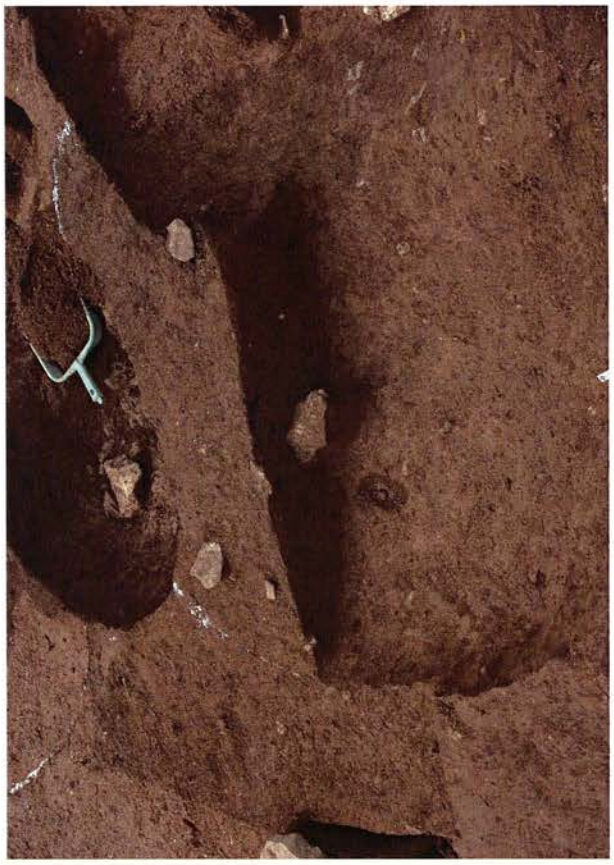
29 号土坑

32 号土坑

33 号土坑



34 号土坑



37 号土坑

39 号土坑

41 号土坑

42 号土坑

43 号土坑

44 号土坑

46 号土坑

48 号土坑

50 号土坑

51 号土坑

54 号土坑

56・68 号土坑

57 号土坑

58 号土坑

61 号土坑

67 号土坑

遺構外出土の石器

遺構外出土の石器

遺構外出土の石器

遺構外出土の石器

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひらやまいせき
書名	平山遺跡
副題	農産物処理加工施設に伴う建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第13集
著者	佐野　隆
発行機関	北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会
所在地／電話	〒408-0188　山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1　0551-42-1373
印刷所	須玉印刷　山梨県北杜市須玉町若神子3931
発行日	平成18年（2006）3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしすたまちょうえぐさあざひらやま
所在地	山梨県北杜市須玉町江草字平山
位置	北緯35°　48′　49″　　東経138°　28′　30″
調査原因	農産物処理加工施設建設
調査期間	平成17年6月21日～平成17年7月22日
調査機関	北杜市教育委員会
調査面積	1669㎡
時期	縄文時代、弥生時代
主な遺構	縄文時代の竪穴住居1軒、弥生時代中期の竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、縄文時代～弥生時代の土坑・ピット
主な遺物	縄文時代、弥生時代の土器、石器
特記事項	平山遺跡では2度目の調査。山梨県北西部では稀少な弥生時代の墓域と思われる土坑群、掘立柱建物跡。埋甕炉を伴う弥生時代の竪穴住居跡。

北杜市埋蔵文化財調査報告　第13集
平山遺跡
農産物処理加工施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006年3月25日　印刷
2006年3月31日　発行

発　行　北杜市教育委員会
山梨県北杜市須玉町大豆生田961-1
TEL (0551) 42-1373

印　刷　須玉印刷
山梨県北杜市須玉町若神子3931
TEL (0551) 42-2346